

令和6年度

教育委員会の事務の点検・評価報告書
(令和5年度事業分)

令和6年8月

始良市教育委員会

目 次

I	教育委員会の点検・評価制度の概要等・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	教育委員会事務局の点検・評価・・・・・・・・・・・・・・・・	4
	教育委員会事務局	
1	教育総務課・・・・・・・・・・・・・・・・	4
2	学校教育課・・・・・・・・・・・・・・・・	9
3	社会教育課・・・・・・・・・・・・・・・・	21
4	図書館事務局・・・・・・・・・・・・・・・・	31
5	保健体育課・・・・・・・・・・・・・・・・	36
6	国体推進課・・・・・・・・・・・・・・・・	42
III	教育委員の点検・評価・意見・要望等・・・・・・・・	44
IV	外部評価委員の点検・評価・意見・要望等・・・・・・・・	60
	【資料】	
	外部評価委員・教育委員 名簿・・・・・・・・	78
	始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則・・・・・・・・	79
	始良市教育委員会外部評価委員会規程・・・・・・・・	80

I 教育委員会の点検・評価制度の概要等

1 制度の概要について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）の一部改正により、平成 20 年度からすべての教育委員会が、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」を行うこととなり、その実施に当たっては、学識経験者の知見を活用することが規定されています。また、その結果については議会へ報告し、市民に対しても公表することが規定されています。（以下「条文抜粋参照」）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む）を含む）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 始良市教育委員会の点検・評価の実施方針について

始良市教育委員会において、前年度に実施した事務事業の内容について、『始良市の教育』（教育行政要覧）の各課重点施策を基本に、評価項目を分類します。

そして、事務事業自己点検・評価シートを作成し、教育委員会事務局内部で評価を実施した後、各教育委員の点検・評価を受け、その後、教育に関する学識経験を有する 5 名で組織する外部評価委員会を 2 回開催し、点検・評価を実施した後、報告書としてとりまとめます。

報告書は、9 月定例教育委員会での議決を経て市議会へ提出した後、10 月以降を目途に始良市のホームページを活用して市民に公表します。

3 自己点検及び評価における観点

(1) 教育委員会

教育委員会は、その社会的責任を果たすため、『始良市の教育』に掲げた重点施策に基づく教育活動等の状況について、教育水準の向上や活性化の成果と課題を自己点検し、その結果を踏まえ、優れていた点や改善を要する点などを明らかにするために評価を行います。

(2) 教育委員

教育委員は、教育行政の基本方針や重要事項を審議して決定した重点施策に基づいた教育活動等の状況について、教育水準の向上や活性化の成果と課題を自ら評価します。

(3) 外部評価委員

外部評価委員は、教育委員会の教育活動等の状況及び教育委員会の自己点検と評価の結果に関し、第三者の有識者として、その客観性及び妥当性を担保するとともに、教育活動全般の質の更なる改善・改革に資する考察や実質的な助言を付して総括的に評価します。

4 評価点数結果及び各課の評価項目件数

評価項目は、教育総務課 4 項目・学校教育課 13 項目・社会教育課 14 項目・図書館事務局 8 項目・保健体育課 7 項目・国体推進課 1 項目の合計 47 項目であり、全評価項目の平均評価点数は 4.3 点であった。

始良市教育振興基本計画に基づく取組の着実な実施と、子育て基本条例に基づく社会全体の協働による子育て・人づくりのための具体的施策を展開した。

5 評価点数について

評価点数は 5 段階評価とし、基準等は下表のとおりとした。

評価	評価の基準等	達成割合の目安
5	目標を十分に達成し、期待以上の成果が得られた。	8割 ～ 10割
4	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。	6割 ～ 8割
3	目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた。	4割 ～ 6割
2	目標をあまり達成できず、成果が少なかった。	2割 ～ 4割
1	目標をほとんど達成できず、成果がなかった。	0割 ～ 2割

6 令和6年度の自己点検評価報告書作成スケジュール

日 程	内 容
4月23日（火）	各課の自己点検評価の実施・評価シートの作成依頼
6月7日（金）	教育委員による評価の依頼
6月7日（金）	外部評価委員委嘱の承認（定例教育委員会）
7月8日（月）	第1回 外部評価委員会 〔制度・趣旨説明・教育委員会自己評価の説明〕
7月8日（月）	外部評価委員による評価の依頼
8月28日（水）	第2回 外部評価委員会 〔事務の点検・評価報告書のとりまとめ〕
9月13日（金）	点検・評価結果報告書の議案提出（定例教育委員会）
9月下旬	『点検・評価結果報告書』の市議会への提出
10月中旬	『点検・評価結果報告書』の市民への公表（市ホームページに掲載）

Ⅱ 教育委員会事務局の点検・評価

1 教育総務課の成果と課題

1. 教育委員会の活性化の推進

【成果】

教育委員会の活性化の推進については、①定例教育委員会は、「始良市教育委員会の行政組織等に関する規則」で定める毎月10日前後に開催し、概ね全委員の出席のもと、本市の教育行政における重要事項や基本方針などを審議した。活発な質問や意見等が出され、相互の理解を深める中で議決・承認された事項に基づいた具体的な事務や生涯学習、学校教育、文化振興及びスポーツ振興等の幅広い施策の展開につなげることができた。

また、第1回臨時会（3月）では、教職員の人事異動（内申）を諮り、本市の健やかな学びとより高い教育水準を支える人材の確保と環境を整えることができ、第2回臨時会（7月）では、小学校教科用図書の採択について審議し、適切な教科書採択を行った。

〔予算議案5件、条例・規則等制定・改廃案件9件、附属機関の委員等の委嘱等人事案件9件、その他9件、計32件の議案及び報告13件〕

②総合教育会議（12月開催）では、「中学校部活動の地域移行について」をテーマに、国・県の動向及び本市の取組状況や課題を共通認識することができた。

③教育委員研修を通じて、教育行政の基本方針や重要事項を審議・決定するための識見や知見を更に深め、広げることができた。

〔鹿児島県・地区主催の研修〕

県市町村教育委員会委員研修会（市町村自治会館：7月）

地区教育委員会連絡協議会研修（鹿児島南特別支援学校・開陽高等学校視察：11月）

〔始良市主催の研修〕

九州外研修（市町村教育委員会研究協議会（文部科学省主催）参加、江東区ブリッジスクール視察／東京都：2/8～2/10）

教育部主催の研修（新学校給食センター整備計画案について、いじめ対策・不登校支援について、郷土教育について）

④教育委員活動としては、積極的に各種行事に参加した。全ての幼稚園、小・中学校の学校訪問を実施し、各園・学校のグランドデザイン（個別の方針や構想）を基にした経営方針の説明を受けるとともに、学力・体力の状況や抱える課題等の実情を把握できたことにより、画一的な教育行政にとどまらず、柔軟で多様性のある教育振興につなげることができた。さらに、1人1台タブレットを活用した新しい時代に向けた学習・授業の様子や、特別な支援を必要とする児童生徒が増加している状況を確認するとともに、重富小学校の児童数増加に対応した新設のプレハブ校舎を確認できた。

【課題】

③・④社会情勢や時代の変化に即した研修や活動となるよう工夫する必要がある。

外部評価委員の評価点 平均 4.8 点

2. 適正な人事管理業務の推進

【成果】

適正な人事管理業務の推進については、①質の高い教育行政を支える人材育成を目指し、職務上必要となる知識や技術を習得するための各種研修を実施し、教育行政に従事する職員の資質を向上させることができた。

(1) 県自治研修センター等の役職別研修

新規採用職員研修 1名、主査研修 2名、新任係長研修 0名、
新任課長補佐研修 1名、再任用職員研修 0名
一般職員研修 1名、新任課長研修 0名
女性リーダー研修（中央研修）1名

(2) 市職員研修

新規採用職員集中研修 2名、法制執務研修 3名
行政手続き研修 5名、コンプライアンス研修 12名
ハラスメント研修 18名、政策能力向上研修 3名
人権啓発研修 12名、女性リーダー育成研修 10名、
イオン研修 3名

②職種別の研修会を開催し、学校での業務が円滑に進むよう企画・実施した。

- ・事務局職員研修会（4月：行政職員としての心得）
- ・学校司書補研修会（7月：ナノシステム操作・図書館運営について）

③職員の業績評価書の作成および期首面談（４月）、期末面談（２月）、評価結果の開示および指導（３月）を実施し、職員一人一人が適切な業務目標を設定し遂行したことにより、組織全体の生産性を向上させることができた。また、会計年度任用職員 290 名の継続雇用にあたり、担当課で面談を実施し、現状の確認等を行い、次年度の職員の適正な配置につなげた。

④各種健康診断等を通じて職員の健康保持に努めた。

- ・ 職場健康診断受診者：正規職員 34 名、会計年度任用職員 51 名
- ・ 人間ドック：市町村共済 26 名、学校共済 30 名

⑤労働安全衛生法の規定に基づくストレスチェックを年２回実施し、職員の心の健康の保持に努めた。

【課題】

職員の資質をさらに高めるため、外部研修（マナー研修、修繕、植栽、清掃、救命、防犯、防火などの管理業務など）や職員個々の理解度に応じた研修、さまざまな視点・知識・経験知を共有する場となり得る研修会などを調査・研究する一環として、研修後などにアンケートや面談などを実施し、研修内容の更なる充実に努めたい。

外部評価委員の評価点 平均 4.0 点

3. 適正な財務事務の推進

【成果】

適正な財務事務の推進については、限られた予算でできる限り多くの事業を実施できるよう、財務事務の効率的な運営・適正な予算の編成及び適切な執行をもって、円滑な教育行政を支えることができた。

また、学校事務職員研修会を４回実施し、主に予算執行に関して共通理解を図る機会を持った。また、転入学校事務職員を対象に財務会計処理についての実務研修を実施し、本市の財務事務の理解度を高めることができた。

令和４年度決算監査、５年度定期監査では、指摘事項はなく、適正な予算執行が図られているとの評価を得ることができた。

学校備品監査では、学校からの要望を受け、提出資料をデータで受け取るよう変更した。実地調査は、小学校５校、中学校１校が対象となり、特に指摘はなかった。

【課題】

学校の高額備品の購入が容易にはできない財政状況にあるため、例えば、『高額備品の購入・更新計画書』を整備するなど、年次的な購入更新を進められるような手立てを検討する必要がある。

外部評価委員の評価点 平均 4.2 点

4. 良好な教育環境整備の推進

【成果】

良好な教育環境整備の推進については、令和4年度に策定したバリアフリー化整備計画を基に実施設計を行い、令和6年度からのバリアフリー化整備工事の準備を行った。

また、学校施設及び関連施設の維持管理により、健やかに学習できる施設環境と衛生環境の維持・向上に努めた。

教職員住宅については、老朽化してきた蒲生中学校教頭住宅の屋根及び外壁の塗装を行い、住環境の整備に努めた。また、空き家住宅の草刈り、樹木の剪定等を行い、維持管理に努めた。

校舎等の新築・建替えについては、生徒数の増加が見込まれる重富中学校にプレハブ校舎を新築し、令和6年度の学級増に備えた。また、永原小学校の屋外倉庫がシロアリ被害を受けたため、軽量鉄骨造平屋建ての倉庫を新築した。

校舎等の改修については、始良小学校体育館外壁改修工事及び加治木中学校部室屋根改修工事等を行い、建物の維持に努めた。また教室増に伴い、柁城小学校、加治木小学校の教室に空調機設置を行った。なお、学校・幼稚園施設の解体はなかった。

校地等の安全対策については、各学校・幼稚園の樹木について、樹木医による診断を行った。また、診断結果に基づき緊急度の高い樹木については、学校環境を安全に保つために伐採等の作業を行った。

学校ICT整備については、令和6年度教員増に対応するため、教職員用の校務用パソコンを追加整備した。校務用パソコンやプリンターの修繕が前年より増えており、都度対応した。

【課題】

学校施設については、老朽化の状態に応じて優先順位を考慮しながら、計画的な改修、新築、改築等を進める方針である。

また、児童・生徒および特別支援学級の児童・生徒の増加に伴い、新しい

校舎や教室を確保するために、増築等の検討が必要である。さらに、老朽化したプール施設や機能低下した校庭（園庭）の改修を計画的に進める必要がある。

学校のＩＣＴ環境についても、デジタル社会に適した教育環境を段階的に整備し、最適な状態にすることの検討を進める必要がある。また、校務用パソコンなどの故障が増加しているため、予算の確保も必要である。

外部評価委員の評価点 平均 4.6 点

2 学校教育課の成果と課題

1. 規範意識を養い豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育の推進

『豊かな情操・感性を育てる道德教育の充実』

【成果】

規範意識を養い豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育の推進については、
①「学級経営研修会」及び「道德教育推進教師研修会」を開催し、学校における道德教育の基盤作りに努めた。また、道德科指導法開発委員会では、本事業の重点項目についての理解を深める授業ができるように、郷土素材を活用した読み物教材を作成した。また、『二十歳の式典』の参加者を対象に、アンケート調査を行い、本事業の取組が義務教育卒業後にどの程度浸透しているか把握に努め、一定の成果が確認できた。

②モラリティ・インプルーブメント実践推進校の柁城小が実践発表を行い、学校・家庭・地域の三者協働による道德教育推進のモデルを市内の学校・家庭・地域へ示すことができた。意見交換会では、小学6年生が参加したことにより、子どもたちの思いや保護者・地域の思いを互いに共有することができた。

③学校・家庭・地域が、協働して子どもの道德性を育むためにどのような取組が必要かを考えるモラリティ・インプルーブメント・ミーティングにより、子どもの道德性を育むための具体的取組を推進することができた。その一例として、「みんなのカレンダー」を作成して、各家庭に配布し、「あいさつ、ルール・マナー、感謝の心、ふるさと」について子どもたちに啓発することができた。また、18歳以上の大人を対象に、「ハートフルメッセージコンテスト」を実施し、優秀作品を印刷製本して配布することにより、市民の道德性の向上にも取り組むことができた。

④子どもの豊かな情操を育むための小・中・高生による弁論大会「ことばのいずみコンクール」では、257点の応募があり、優秀賞を受賞した11名によるスピーチコンテストを実施した。また、始良市にゆかりのある上園歩美講師により、夢をかなえるために大切なことをテーマとし、郷土を知り、誇りに思うこと、感謝の気持ちをもつことの大切さについて講演していただいた。どちらも、参加者は昨年度と同程度の370人であったが、学校・家庭・地域の三者協働による道德教育について啓発することができた。

【課題】

①郷土素材を活用した読み物教材集についての授業実践事例について継続して作成に取り組み、より多くの職員が活用できるようにし、本事業の重点項目や取組内容を全職員に浸透させていく必要がある。また、本事業についてのアンケートを『二十歳の式典』参加者や小中学生に対して行うことにより、本事業の効果等を検証していきたい。

②実践発表会への参加者を、更に増やせるような取組を検討事項として考えている。

③モラリティ・インクルーブメント・ミーティングでの提言を保護者や地域に周知し道徳性が向上するような取組については、改善の余地がある。また、市民の道徳性の向上を目的とした『ハートフルメッセージコンテスト』について、周知方法を検討するなどして、さらに多くの作品を募集できるようにしていく必要がある。

④弁論大会への応募者（特に中高生）と、弁論大会及び講演会の参加者を引き続き増やすために検討を重ねながら、解決策を見出していきたい。

外部評価委員の評価点 平均 4.8 点

『児童生徒の心に届く生徒指導の充実』

【成果】

①市独自にスクールカウンセラーを3人配置したことで、児童生徒や、その保護者、教諭等の相談体制の充実につながった。

②2人のスクールソーシャルワーカーが、児童生徒が抱える課題や家庭状況の環境改善に向け、学校、関係福祉部局、警察等との連絡・調整を行ったことで、児童生徒の学校・家庭生活の改善につながる事例が見られた。

③適応指導教室への通室児童生徒数は始良教室で21人（1日平均13～20人程度）、加治木教室で6人となっている。指導員による継続した指導を講じることで、学校復帰を果たしたり、上級学校へ進学したりする児童生徒がいた。中学3年で通室していた生徒の全員が高等学校入学を果たした。

④事件や事故など、児童生徒やその保護者に対して緊急を要する場合の心理的カウンセリングを行ったことで、児童生徒一人一人に対応した支援につながった。

【課題】

- ①小学校におけるカウンセリングのニーズが高まっており、今後スクールカウンセラーの配置回数、配置場所については検討する予定である。
- ②児童生徒が抱える課題や家庭状況の環境改善により細やかな対応を図るため、スクールソーシャルワーカーの更なる効果的な活用について検討する。
- ③児童生徒の再登校を促すために、学校との連携を更に深める。
- ④スクランブルカウンセリング後の、児童生徒への継続的な支援のあり方について、検討する。

外部評価委員の評価点 平均 3.6 点

『人権教育及び体験活動や読書活動の充実』

【成果】

①各学校の人権教育の全体計画及び年間指導計画について把握し、指導を行ったことにより、学校における人権教育の充実を図ることができた。

②管理職研修会で各学校での人権教育の重要性を説明し、校内研修の充実についての指導を行った。また、県及び地区で開催される人権教育に係る研修について各学校に周知し、教職員の参加を計画的に進めることができた。さらに、県の人権教育総合推進地域事業の指定を受けた山田中ブロックでは、保護者や地域の方々と講演会を聞いたり、合同で授業をしたりして、様々な人権課題に対してどのように向き合えばよいかについて考えるとともに、保護者や地域と協働して『山田の人権宣言』を制作、発表し、児童生徒や教職員、保護者、地域の人権教育の推進を図ることができた。

③各学校においてコロナ禍以前の要領で宿泊学習を実施し、充実した活動を行うことができた。

④図画作品審査会については、昨年度から 1 週遅らせて開催したことにより、作品の製作時間が確保され、各学校から優れた作品が出品された。理科作品審査会についても各学校から優れた作品が多く出され、14 点の作品を鹿児島県理科作品展に上げることができた。

⑤小・中合同音楽会については、市音楽部会と連携を図り、加音ホールで午前と午後に分けて開催し、児童生徒が練習した演奏や合唱などを発表する機会を確保でき、市内小中学生の音楽を通じた交流を図ることができた。また、プロのバイオリニストの演奏を聴く機会をもつことができた。

【課題】

- ①各学校の実態に応じた人権教育の全体計画及び年間指導計画の改善が図られているかを、今後も見届けていく。
- ②より多くの職員が人権教育に関する各種校外研修会に参加できるように、今後も実施計画を早めに周知するとともに、職員の計画的な参加を促す。
- ③図画作品審査会は今後も活動内容や実施方法を検討し、充実させていく必要がある。
- ④図画作品審査会は熱中症対策が危惧される状況での開催となったので、次年度に向けて審査会場・審査方法については検討が必要である。
- ⑤すべての学校が練習の成果を発揮できるように、演奏時間を確保し、小中合同音楽発表会の目的を達成できるよう運営していく必要がある。

外部評価委員の評価点 平均 4.2 点

『幼児教育の充実』

【成果】

- ①幼稚園長研修会を年6回実施することができた。幼稚園長研修会では、市教育振興基本計画、市子育て基本条例に基づいた各公立幼稚園経営の充実について意見交換し、各園の経営の改善や教育課程の充実に生かすことができた。
- ②公立幼稚園・保育所間の研究協力及び就学前教育から小学校教育への円滑な接続を図る取組の充実（保幼小連携）を図ることができた。
- ③10月に幼稚園教諭等研修会を実施し、教員の指導力向上を図ることができた。
- ④各幼稚園ブロックを中心に、幼・小交流学习を行い、幼保小の切れ目のない接続を図ることができた。

【課題】

- ③第2回幼保小連携研修会と幼稚園教諭等研修会の期日が近かったため私立幼稚園や保育園等からの参加が少なかった。令和6年度は時期をずらすように検討する。

外部評価委員の評価点 平均 4.2 点

2. 能力を伸ばし、社会で自立する力をはぐくむ教育の推進

『確かな学力の定着』

【成果】

能力を伸ばし、社会で自立する力をはぐくむ教育の推進については、
①-1 各中学校ブロックごとに、小中連携して学びを支える基本的な学習・生活習慣に関する共通実践事項を設定して取り組んだことで義務教育9か年を通じた一体的な学びを作り出すことができた。

①-2 学習指導要領の求める授業づくりについて実践的に学べる研修を行ったことで、参加者は今後の授業づくりに生かそうという意欲を高めた。

これらの取組を通して、令和5年度鹿児島学習定着度調査においては、小学校は全教科で県平均を上回ることができた。また、中学校においては、1年生では5教科中3教科、2年生では2教科が県平均を上回った。県平均を下回った教科についても、その差は前年度に比べて縮小させることができた。

②教育フォーラムでは諸富祥彦氏を講師として招聘し、市内全教職員を対象に、不登校の未然防止のための学級経営の充実についての教育講演会を実施し、2学期以降の教育活動の充実を図ることができた。

③次年度教育課程編成に向けた基本的な考え方と重点について共有を図ることができた。特に、授業時数における予備時数の適正化について取り組むことができた。

④地区指定（錦江小、帖佐小）、市指定（加治木小、蒲生中）それぞれに対して、運営にかかる費用の補助だけでなく、授業作りや研究推進に係る内容、体制作りについても適宜指導、助言を行うことができた。

⑤⑥⑦

各調査結果については、それぞれの学校で分析を進めるとともに、市としての集計と結果の分析、考察を行い、管理職研修会や学力向上アクションプラン推進会議等で、周知と対応の協議を図ることができるようにしたことで、市全体として重点的に取り組んだり、改善を図ったりすることができた。

なお、小学校においては、⑤、⑥、⑦いずれの調査結果も県や全国と比べて高い通過率を得ることができた。

【課題】

②講演会で学んだことが各学校での実践に生かされているかを見届けて

いく必要がある。

⑤⑥⑦

中学校の各調査結果は、前年度に比べると回復傾向にはあるものの、全国的に全国や県を下回る結果となった。

外部評価委員の評価点 平均 4.2 点

『理数・外国語教育の充実』

【成果】

①理数・外国語教育推進事業として、理数分野、外国語分野それぞれ計画に沿った取組が展開された。

②1校当たり年間 60 日、1日当たり3時間、指定校2校（帖佐小学校、蒲生小学校）に理数定着支援員を配置した。算数科の授業を中心に個別指導を実施し、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図ることができた。

③算数・数学指導法研修会を開催し、思考力・判断力・表現力を育成するための授業について研修を深めることができた。

④スーパーサイエンス総合推進事業

○あいらぶ！サイエンス講座では、51 名の中高生が受講生として活動した。気象と防災に関わる講座を新設し、K T S 及びM B C のニュースキャスターを講師に招き、活動の充実を図ることができた。

○東京で2泊3日の科学施設視察を行うことができた。筑波のJ A X A や国立科学博物館等を訪問し、最新の科学技術に触れる体験をすることができた。

○鹿児島高専と連携して1月にロボット講座を行うことができた。小学生を中心に16名が参加し、ロボットの仕組みや操作等を体験することができた。

○中山教育基金賞事業として、優秀理科作品の選出・表彰を行うことができた。15名に賞状、副賞を授与した。

○サイエンスあいらんどを11月に実施し、教職員等による実験教室14ブースを出すことができた。

⑤9名のAEAを15校へ4，056時間配置するように取り組んだ。

⑥外部講師（鹿児島純心大学 川上典子教授）を招聘して、新学習指導要領を踏まえた外国語科の授業づくりについてご指導いただくことができた。

⑦⑧第1回、第3回の研修会においては、研究授業や授業研究を通して、特に単元全体を見通した「思考力・判断力・表現力」を高める言語活動の在り方や小中連携の在り方を意識するとともに、学習指導要領の内容を踏まえた指導の充実を図ることができた。

【課題】

①理数・外国語教育推進事業により、引き続き理数・外国語の学力の定着を図る必要がある。

③算数・数学科指導法研修会について、各学校において思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善が推進されるように、研修内容については、検討を進め、適切な対策を見つけないと考える。

④サイエンスあいらんどへの参加、科学施設視察での訪問等、岡山理科大学との連携を進める。

⑤AEAと派遣校の連携をさらに充実させながら、児童の学びを引き続き活性化させていく必要がある。

⑥研修後に各学校でどのような取組がなされたのかを見届ける手立ても工夫したい。

⑦⑧全国学力・学習状況調査の結果は県平均を上回ったものの、全国平均には及ばない結果となった。今後の演習問題の授業での効果的な活用について研修を深める必要がある。

外部評価委員の評価点 平均 4.8 点

『特別支援教育や情報教育の充実の推進』

【成果】

①特別の教育課程を編成することができる特別支援学級において、自立活動は重要な教育活動であることから、自立活動に関する研修を行った。自立活動の基礎・基本に加え、個別の指導計画の目標設定や指導内容の選定について取り扱ったことで、2学期以降の自立活動に生かすことができた。

②③市内小中学校に58人の特別支援教育支援員を配置し、通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒の支援を細やかに行うことができた。年2回の支援員研修会では、支援員の役割や発達障害に関する研修に加え、

日頃の支援員日誌を基に、児童生徒に対する支援や、学校や支援員間の連携を図るための工夫に関するグループワークを実施し、支援の質の向上につながった。

④年4回の教育支援委員会で、医療や保健福祉、教育等の専門家による審議結果を踏まえるとともに、本人、保護者の意思を尊重しながら、就学先について合意形成を図ることができた。

⑤本市の特別支援教育に関する現状と課題について共有が図られ、改善策に関する活発な協議がなされた。

⑥夏と秋の計8日間で就学相談会を計画どおり実施し、271名の相談を受けた。

⑦学校訪問の際、特別支援学級においてもロイロノートを活用した授業実践が増えてきている。

【課題】

①特別支援学級在籍児童生徒数の増加に伴い、初めて特別支援学級担任をする教員が3割強である。特別支援学級の特徴的な活動である自立活動の充実を図っていききたい。

②例年、年度途中で突発的な事案が生じることもあるため、学校での支援状況を把握しながら、迅速且つ柔軟な対応を行っていききたい。

③各学校で支援員日誌の書式が異なるため、勤務先が変わった場合に戸惑わず、記入量に差が生じないように書式の統一を図りたい。

④障害の状態については十分確認できているが、どのような支援が行われているか、どのような支援が必要かといった視点を踏まえて協議することはできていない。

⑤発達相談で医療機関を受診する幼児児童生徒が増加しており、半年以上の待ち状況が生じている。

⑥就学相談会以降に臨時で就学相談の依頼（16件）があり、学級編成の報告に影響が生じた。本市の就学相談・支援のスケジュールについて、周知徹底していく。

⑦端末の持ち帰りによる家庭学習の活用について、学校間で差が見られる。

外部評価委員の評価点 平均4.2点

『進路指導・キャリア教育の充実』

【成果】

①小中学生のキャリア教育に賛同し協力いただける事業所が多くあり、職場体験学習や職場見学のための「あいらキャリアサポートバンク(175事業所、前年比±0)」を維持することができた。

②市内の事業所からキャリア教育推進委員を選定し、事業者や子育て支援の立場から考える児童生徒の職業観・勤労観について協議を深めたことで、「自立」に向けて育成したい資質や能力を学校や地域でどのように伸ばすかについて貴重な意見をいただくことができた。

③すべての学校において職場体験学習を実施することができ、生徒の職業観や将来の生き方について考える機会を得ることができた。

【課題】

①②始良市が掲げる「自立」に向けて、将来の社会的な自立につながるようにキャリア教育推進協議会の内容の充実を図り、各学校に還元していきたい。

③令和6年度は、中学校における職場体験学習の受け入れが可能になりつつあり、更なる充実につなげていきたいと考えている。

外部評価委員の評価点 平均 4.6 点

『体験活動や郷土教育の充実』

【成果】

児童生徒や郷土教育の充実については、①学校では地域のよさを生かした総合的な学習の時間の充実のために、体験活動を取り入れ、児童生徒にとってふるさとを再認識する場を設けることができた。

②モラリティーインプルーブメント推進事業において、「郷土」に関連した道徳科の資料作成に取り組んだり、社会科副読本「わたしたちの始良市」の改訂作業を行ったりすることができた。

外部評価委員の評価点 平均 4.0 点

3. 児童生徒や保護者、地域に信頼される学校づくり

『魅力ある学校づくりの推進』

【成果】

①学校経営総合計画（グランドデザイン）に基づく計画的・総合的な経営推進について、学校訪問や管理職研修会、自己申告の場で指導及び評価を行うことで、各学校において経営改善が促進され、経営の充実が図られた。

②各学校の学校評議員会及び学校関係者評価委員会における委員の学校に対する評価や意見等を職員に伝え改善を図るとともに、学校経営の課題としてグランドデザインに表記して、改善に努めることができた。

【課題】

①校長の自己申告等の機会に経営状況に係る資料準備や聞き取りを行っているが、今後も面談の内容等を充実するために数値等による取組状況の把握に努める。

②学校の取組や学校評議員の学校に対する評価や意見等を共有する大切な機会であるので、出された意見を職員と共有に努める。

外部評価委員の評価点 平均 4.2 点

『学校運営の充実及び教職員の資質向上』

【成果】

①年間計画に基づいて、校長・教頭研修会を実施し、市教育行政の説明、当面する課題に応じた講話、協議、演習などを行ったことで、管理職としての職責感や学校経営への意欲を高めることができた。

②教育事務所との合同訪問を含め、全幼稚園、小・中学校の学校訪問を計画的に実施し、学校施設、児童生徒の様子、職員の動きを授業参観や表簿等閲覧を通して点検し、経営全般において実態に応じた指導助言を行った。

③指導力向上セミナーについては、小学校5教科、中学校6教科の講座を開設し、授業作りに関する講義と演習の両方に取り組むことで具体的な授業作りについての見通しをもたせることができた。

【課題】

- ①教育委員会各課と連携し、管理職研修会の指導内容や指導方法等について検討していく必要がある。
- ②学校ごとに抱える課題に対して、今後細やかな指導を行う必要がある。
- ③教員のニーズにあった研修会になるよう、研修内容の検討を進める必要がある。

外部評価委員の評価点 平均 4.2 点

『小規模校・複式教育の充実』

【成果】

- ①小規模校特認校制度をより多くの方に周知するとともに、5校間の連携を深めるために、竜門小・永原小・北山小・漆小・西浦小の5校合同説明会を実施することができた。
- ②小規模校・複式学級指導法研修会を実施し、複式指導法についての教員の資質・能力の向上を図ることができた。（西浦小で実施）
- ③北山小、西浦小にそれぞれ1便ずつバスを増便することができた。
- ④集合学習や交流学習を通した多様な学習の場の確保を進めることができた。
 - 3校合同交流学習実施（蒲生小、漆小、西浦小、11月に1日間）
 - 3校合同修学旅行実施（蒲生小、漆小、西浦小、10月に1泊2日）

【課題】

特認校の新一年生の人数を確保できるようにする必要がある。そのために、制度の周知、魅力の発信をしていく必要がある。

外部評価委員の評価点 平均 4.4 点

『教職員の業務改善』

【成果】

①業務改善に係る学校としての取組（１アクション）及び教職員個々の取組（１トライ）が進んでおり、（通常の勤務時間を超えた）在校等時間が目標としている 45 時間以内になるよう意識しながら校務に取り組む職員の割合が増えてきた。

②教育委員会事務局職員で、月毎に市内全教職員の出退勤時刻に係る記録状況を一覧表にし確認するとともに、その状況を毎月の管理職研修会で改善事例と共に紹介したことで、業務改善を意識した学校運営が推進された。

③教職員用の校務支援システム（成績管理、教材の共有化、教職員間の連絡ツール等）の活用が進み、在校等時間が減少した。

【課題】

①各主任等を中心とした学校組織の機能化・活性化を更に図っていきたいと考える。

②出退勤時刻の記録を活用し、改善が図られない職員についてはその理由を確認するとともに、管理職等が指導したり、改善を促す情報提供に努めたりする。

外部評価委員の評価点 平均 3.8 点

3 社会教育課の成果と課題

〔社会教育係〕

1. 社会教育の基盤づくり

『関係機関との協力体制の強化及び職員の資質向上』

【成果】

社会教育の基盤づくりについては、①委員数 15 人、年 2 回開催。研究テーマ「みんなで支える家庭教育支援の在り方～「ひと」「もの」「こと」からのアプローチ～」を設定し、委員から本市での家庭教育支援に対して多角的な視点から意見をいただき、本市の家庭教育支援に関する各事業に反映させた。

〈提言を受けて実施した内容〉

・家庭教育に係る各課の事業一覧を作成し、家庭教育フェスティバルでパネルを展示した。

②職員の職務内容、経験年数等に応じて、研修会への参加を促し、社会教育主事等研修会などにおいて、各市町の先進事例の研修を受けた。また、国・県の基本方針と社会教育についての研修を行い、社会教育の在り方について学んだ。

【課題】

②行事等の重なりで出席することができない研修会がある。

外部評価委員の評価点 平均 4.0 点

『社会教育リーダーの育成及び社会教育関係団体との連携強化』

【成果】

①各団体で市単独、地区合同により各種研修会が実施された。県、地区、市開催の研修会については、各団体へ案内が配布され、参加者の確保が努められた。

②市子ども会育成連絡協議会、市 P T A 連絡協議会、市校外生活指導連絡会、市女性団体連絡会、市生活学校連絡会、市文化協会等、社会教育関係団体に対して、補助金交付や、活動について指導助言を行うなど、育成支援を行った。

- ③事業に関する募集などの掲載を行った。

【課題】

- ①次世代のリーダーの発掘や育成について、県や地区とも連携を図りながら解決策を見出していきたい。
- ②組織加入者が減少している団体への支援については、今後の検討事項である。
- ③SNSを活用した発信は計画段階であり、令和6年度の開始を目標に取り組んでいる。

外部評価委員の評価点 平均 3.8 点

2. 青少年教育の充実

『生きる力を備えた青少年の健全育成』

【成果】

青少年教育の充実については、①-ア 『チャレンジ！日本一』～めざせ富士山頂！3,776mへ挑む～。4年ぶりに富士登山を中心とした活動プログラムを実施。小学生6人、中学生12人、高校生1人の19人参加。全員怪我無く登頂した。

①-イ 小学生13人、中学生8人が参加し、学校や学年の異なる友達と集団宿泊生活をしながら通学する体験を通して、自主性・協調性・社会性を培った。

①-ウ 計6回の活動を実施。定員30名に対して31人の申し込みがあった。様々な職業体験、自己評価や他己評価を重視した活動を実施することができた。

①-エ 計7回12講座を実施。定員470人に対して748人（実人数267人）と多くの申し込みがあり、延べ486人が参加した。親も子も楽しく活動し、学校では学べない体験活動の場となった。

①-オ 対象者956人中647人参加。オープニングアクト（サウンドビュー・アイラ）を招聘、来賓者数を47名に増やし、盛大に式典を開催することができた。

②全小・中学校で年間計画を作成し、コーディネーターを主体に、多様な活動を実施した。また、全中学校区ごとに統括コーディネーター、家庭教育サポーターを配置し、全小学校区にはコーディネーターを配置した。（計27人）

③地区・県が主催する研修会へ参加し、九州地区ジュニア・リーダー交流大会実行委員を選出した。

【参加者数】地区…7人、県…3人、九州…4人

市民会議においては、青少年育成部会では各校区コミュニティ協議会から部会員を選出し、情報交換を実施した。家庭部会では、あいさつ運動標語を募集（6,716点）し、のぼり旗を作成し、あいさつ運動の啓発に努めた。環境部会では、スマホの利用に関する啓発チラシ作成及び配布を行った。

【課題】

①市二十歳の式典においては、始良市に在住の外国籍の対象者（20～22歳）、79名に招待状を送ったが参加者がいなかった。

②中学校区における活動の停滞及び小学校区における充実度の差異がある。

③児童生徒及び保護者の地域活動への参加促進

外部評価委員の評価点 平均 4.0 点

3. 家庭教育・成人教育の充実

『家庭教育の充実』

【成果】

家庭教育・成人教育の充実については、①国・県指定「地域で支える家庭教育推進事業」モデル事業として、推進委員会（年2回）・庁内連絡部会（年3回）の開催、ラジオ番組制作（年10回）、子育てサロン（11回105人参加）、家庭教育フェスティバル（205人参加）、ワークショップ（109人参加）を実施した。

②市立4幼稚園・17小学校・5中学校に委託し、開設。学級生2,725人。学級長研修会では、充実した家庭教育学級にするために講義を行った。家庭教育サポーターによる子育てサロンを11学級実施し、保護者の悩みの解消に努めた。

③市PTA連絡協議会等で保護者に対し、始良市子育て基本条例、子育て手帳の活用について周知を行った。また、各種団体の総会や家庭教育学級で説明を行った。

【課題】

①援助が必要な方への情報発信及び学習機会の提供

- ②子ども園、民間事業者等での子育てサロンの実施
- ③子育て関係各課との共同した事業の取組

外部評価委員の評価点 平均 4.2 点

『成人教育の充実』・『人権教育の推進』

【成果】

①女性学級と高齢者学級を統合し、成人学級（6学級）として開設し、189人が受講した。市民の生きがいづくりや仲間づくりの場としての役割を果たした。また、広く一般市民に学習の場を提供するための今後の方向付けをすることができた。

②市立幼稚園、小・中学校合計 26 園学校において、家庭教育学級を開催し、毎年 1 回以上の人権についての学習を行った。また、A I R A V i e w（広報あいら）のダイアログカフェにて、毎月、男女共同参画の視点から人権についての情報を発信した。

【課題】

- ①成人学級開設の周知、内容の充実
- ②継続的な学習支援及び広報・啓発活動の強化

外部評価委員の評価点 平均 4.0 点

4. 社会教育施設の充実と利用促進

『社会教育施設の充実と利用促進』

【成果】

社会教育施設の充実と利用促進については、①A I R Aふるさと学寮やムーミン講座で利用した。年間利用者数は 2,214 名。

②展望会 54 回 605 人、工作教室 12 回 237 人、特別企画（GW、夏休み企画）6 回 157 名。年間来場者数 4,401 人。空の写真展応募点数 36 点（一般：31 名 小中学生：5 名）

また、空の写真展の展示を始良公民館、始良中央図書館で行った。生涯学習短期講座「天体撮影入門」（全 3 回）の開催。「あいらぶ！サイエンス講座」（全 4 回）や、ムーミン講座も開催した。

③年間入館者数 3,377 人（本館 1,669 人、自由の館 1,708 人）。庭園利用

者数 2,313 人。活性化計画の一環として、夏季企画展「手紙と椋鳩十」を開催。夏季企画展前には、中央図書館出張展示を行い、企画展中は、小学生以下の親子を対象に絵手紙教室を開催し、16 名が参加した。また、毎月市立幼稚園・小学校、市内読書グループに依頼し、親子読み聞かせ会を 6 回、記念館職員による青空読み聞かせ会を 5 回実施。延べ 299 名が参加し、リピーターも見られた。

④指定管理期間の最終年度を迎え、5 年間の集大成を迎えた。途中コロナもあり、地域情報発信等のイベントも開催できない時期もあったが、今年度は、コロナ前に近い来館者数（6,123 人）であった。来年度から新たに 5 年間の指定管理期間がスタートするので、これまでの 13 年間の指定管理者によって構築した地域や団体との交流のネットワークを生かし、更なる利用促進と地域情報発信を行っていく。

⑤陶芸体験館（12,130 人）、屋内競技場（13,881 人）ともに昨年度より利用者が増加した。施設が老朽化し、修繕が必要な箇所も増えてきているが、市と指定管理者と区別を明確化し修繕を行うことができた。

【課題】

②空の写真展の小中学生の部門の応募数が少ない。応募期間に商業施設での展示等を検討する。

④多様な企画・イベントを通して蒲生の魅力の発信

⑤施設が老朽化してきているので、今後、大規模な修繕も想定される。大事に至らないように、日頃から指定管理者と連携を図りながら適切な点検・補修を実施していく必要がある。

外部評価委員の評価点 平均 4.2 点

〔生涯学習係〕

1. 生涯学習の推進

『生涯学習推進体制の整備』

【成果】

生涯学習の推進については、①生涯学習推進会議：企画委員会及び推進会議を年間各 2 回開催した。

②市生涯学習フェア（2/25）始良公民館 来場者 643 人 生涯学習功労賞表彰・表彰伝達、講演「知恵を捨て今を感じる チェスト！」 講師 川崎

宗則選手(栃木ゴールデンブレーブス)、生涯学習展示、学習成果発表、市生涯学習事業展示等を開催した。

③講師・研修先一覧表 R6年3月改定、市内講師 147 名、市外講師 81 名

【課題】

- ②生涯学習フェアの内容充実。
- ③市民の多様なニーズに応じた指導者の発掘・情報提供。

外部評価委員の評価点 平均 4.2 点

2. 芸術文化活動の振興

『芸術文化鑑賞機会の提供による文化意識の高揚』

【成果】

芸術文化鑑賞機会の提供による文化意識の高揚については、①市町村による青少年劇場：10/26 柁城小（499 人）10/30 錦江小（258 人）「児童演劇：トラの恩がえし」、11/16 建昌小（464 人）「児童演劇：ルドルフとイッパイアッテナ」

小学校訪問演奏会：10/6 重富小（750 人）「村上三絃道」、11/14 竜門・永原小（105 人）「サウンドビュー・アイラ」、11/17 帖佐小（510 人）「みやまおとどけコンサート」

②市立少年少女合唱団：団員数小中高生 25 人、毎週土曜日練習、どリーむフェスタ（5/7）、県少年少女合唱祭（7/25）、市文化芸術祭（12/3）、椋鳩十文学記念館賞贈呈式（1/20）、定期演奏会（2/18）、こころの花束コンサート（3/2）

③第 22 回始良 10 号美術展：1/19～2/4 加音ホール、308 人/370 点出品、大賞・優秀賞・生涯学習賞・特別賞・特選・高校生大賞・高校生特選計 41 点

④市文化芸術祭：みやまおとどけコンサート、郷土芸能披露を企画し、多様性のある芸術祭を提供した。動員数（12/3・1,328 人）。

令和 5 年度はコロナ禍以前の事業内容に戻し、事業を行うことができた。

【課題】

- ②コロナ禍以降の団員数の減少

外部評価委員の評価点 平均 4.0 点

3. 公民館施設の充実

『施設環境の整備』

【成果】

公民館施設の充実については、①・②市内各公民館において、施設の維持保全に必要な修繕等を適宜行うとともに、環境美化に努め、安全で利用しやすい環境を整えた。主なものとしては、始良公民館（非常用照明修繕）、帖佐地区公民館（研修室照明器具修繕）、重富地区公民館（屋根修繕）、脇元地区公民館（大会議室空調ブレーカー修繕）、松原地区公民館（誘導灯修繕）、蒲生公民館（空調設備改修工事、くらしの間漏水修繕）などを行った。

【課題】

①・②施設の老朽化や設備備品の更新等については、財政状況も踏まえ、検討を重ねて計画的に進めていく予定である。

外部評価委員の評価点 平均 4.0 点

4. 公民館事業の充実

『関係機関との協力体制の強化』・『生涯学習講座の充実』・『公民館利用の拡充』

【成果】

公民館事業の充実については、①公民館運営審議会：年2回開催

②一般講座：39、ミニ講座：15、親子講座：9、計63講座開設。受講者830名。昨年度比で開設講座数が8増、受講者数が128名増加した。

③公民館施設利用者数 年間合計 224,897人

・始良公民館	140,122人	・山田地区公民館	2,479人
・帖佐地区公民館	13,833人	・松原地区公民館	36,035人
・脇元地区公民館	10,237人	・重富地区公民館	6,121人
・蒲生公民館	16,070人		

【課題】

②若年層（就労世代）の受講者数の増加に向けて、講座内容や開催時期・時間帯等について、検討を進めていく予定である。

外部評価委員の評価点 平均 4.0 点

〔文化財係〕

1. 指定文化財の保存・活用

『文化財の管理・保存・整備』・『文化財の広報・活用・調査』

【成果】

指定文化財の保存・活用については、①年4回の審議会で新指定文化財候補について協議し、文化財新指定3件を答申。令和6年1月12日付で指定。総数207件（指定194件・登録13件）

②指定史跡について、市シルバー人材センターへの委託、歴史ボランティアによる巡回・清掃、職員の定期清掃を組み合わせ、通年的に維持管理を図った。

蒲生のクスは、国庫補助事業で神社車祓場の土壌改良・透水性踏圧防止舗装を実施した。

建昌城跡は、県地域振興推進事業で剪定枝のチップを敷設し、防草化を図った（緑のリサイクル事業）。

③神社調査で、蒲生地区8社・加治木地区1社の社殿内調査、蒲生地区21社の石造物拓本調査を実施した。

④指定文化財説明板6件、地区史跡案内板3件、史跡標柱ほか2件を修繕した。加治木ロータリークラブの協力で、8件の文化財説明板を設置・修繕した。

⑤市報「あいらひすとリー便」で、毎月歴史民俗資料館・加治木郷土館の逸品を紹介した。文化財パンフレット・ガイドブックは適宜増刷、指定文化財マップ・埋蔵文化財包蔵地図は最新情報に更新し印刷した。

⑥歴史民俗資料館で「ふるさと歴史講座」（参加者延べ411人）を開設した。

史跡めぐりは、5月に「歩き・み・ふれる歴史の道・潮風香る「なぎさ」を往く」（参加者22人）、11月に「蒲生城（竜ヶ城）を歩く」（参加者28人）を実施した。

松原なぎさ小学校、蒲生中学校、柁城校区コミュニティ協議会、生涯学習講座、永原小学校家庭教育学級、ムーミン講座、市子ども会交流会等で、始良歴史ボランティア協会と協力して史跡めぐり等の支援を行った。

【課題】

②建昌城跡の整備・活用

⑤文化財情報のデジタル化及び情報発信

外部評価委員の評価点 平均 4.8 点

2. 埋蔵文化財の保存・活用

『埋蔵文化財の保護と開発事業との調整』

【成果】

埋蔵文化財の保存・活用については、①令和元・2年度に発掘調査した前田遺跡出土品の分析調査に取り組むとともに、縄文時代中期(約4500年前)の編みかご6点を保存処理した。また、専門家の指導のもと、出土種実の詳細分類と土器圧痕の分析調査を行った。

②開発行為に伴う確認調査25件(前年度比+9件)を実施した。

③埋蔵文化財包蔵地の照会372件(前年度比+50件)に対して回答し、うち31件について文化財保護法第93条届出を受理した

【課題】

①前田遺跡調査成果の一般公開

②・③各種開発に伴う調査件数の増加

外部評価委員の評価点 平均4.8点

3. 郷土芸能の保存・育成

『郷土芸能の振興』

【成果】

郷土芸能の保存・育成については、①加治木太鼓踊大会(8/16)、蒲生太鼓踊り公開(8/21)を4年ぶりに通常開催した。

②各保存会が披露・公開を実施した。蒲生大楠どんと秋祭りで宮脇棒踊り、市文化芸術祭で反土太鼓踊り・宮脇棒踊り、日本遺産シンポジウムで北太鼓踊りが披露した。

③16保存会に対し、後継者育成と保存会活動支援を目的に補助金を交付した。

【課題】

①踊り子の熱中症対策

③少子高齢化に伴う後継者不足

外部評価委員の評価点 平均4.6点

4. 施設の充実

『歴史民俗資料館の運営』

【成果】

施設の充実については、年間入館者は〔歴民館〕2,337人〔郷土館〕1,363人であった。

①年2回運営協議会を開催し、両館の運営について協議した。学校教育・社会教育での資料館活用や他の社会教育施設との連携等について、多くの提言をいただいた。

②特別展資料を常設展に追加し充実を図った。

○特別展

〔歴民館〕「前の浜の戦」(入館者421人)

「森と生きた縄文人」(入館者719人)

〔郷土館〕「加治木の江戸時代の面影」(入館者385人)

③小学校3・4年生の社会科見学に対応した。

〔歴民館〕小学校6校741人

〔郷土館〕幼稚園・小学校7校225人

④始良歴史ボランティア協会の活動をサポートし、各種団体の史跡めぐりのガイドを行った。

⑤「ふるさと歴史講座」(参加者延べ411人)を開設。夏休みには「あいらしまづこども歴史探検」(参加者30人)、「まが玉づくり(ムーミン講座)」(参加者163人)、「桑名の千羽鶴づくり」(参加者14人)、「水鉄砲づくり」(参加者7人)を実施した。

⑥確認調査及び前田遺跡出土品の整理作業を実施し、資料見学希望者には適宜対応した。なお、新庁舎移転に伴い、吉原事務所の機能を分割し、整理事務所を市役所3号館、収蔵庫を旧加治木水道課に移転した。

【課題】

③学校教育・社会教育での資料館利用の促進

外部評価委員の評価点 平均4.0点

4 図書館事務局の成果と課題

1. 図書館のサービス業務と読書活動の充実

『図書館利用の促進』

【成果】

図書館のサービス業務と読書活動の充実については、年間を通し、通常通り開館することができた。コロナが落ち着き、利用者がかなり増えてきている。

〈入館者数〉

中央図書館	166,972 人
加治木図書館	24,033 人
蒲生公民館図書室	4,766 人
計	195,771 人（前年度比+7,069 件）

〈貸出人数〉

中央図書館	71,216 人
加治木図書館	13,234 人
蒲生公民館図書室	3,370 人
計	87,820 人（前年度比+1,373 人）

〈貸出冊数〉

中央図書館	299,399 冊
加治木図書館	61,301 冊
蒲生図書館図書室	14,949 冊
計	375,649 冊（前年度比+6,425 冊）

①〈毎月発行〉

- ・広報紙「ぶらっとまちかど図書館」掲載
- ・図書館だより（自治会班回覧）
- ・映画だより

〈年4回発行〉

- ・こども図書館だより
- ・図書館だよりYA（ヤングアダルト）

〈ホームページ〉

- ・ご利用案内、貸出ランキング、イベント等案内、蔵書検索、予約等

〈イオンタウン始良（相互協定）〉

- ・イベント、映画会、ポスター、図書館だよりの設置

②大活字本 1,609 冊、点字図書 77 冊、LLブック 12 冊、録音図書 214 本

③〈見学・研修の受入状況〉

図書館見学・	12 件	652 名（前年度比＋154 名）
地域貢献研修・	10 校	11 名（前年度比＋6 校 7 名）
職場体験研修・	13 校	24 名（前年度比＋12 校 21 名）
出前講座・	4 件	100 名（前年度比＋3 件 64 名）

【課題】

②障害のある方の図書館利用促進等共生社会を意識した図書館サービスの提供

外部評価委員の評価点 平均 4.6 点

『図書館資料の充実・活用』

【成果】

- ①図書資料、視聴覚資料、雑誌の購入数は、全館で 5,865 点
蔵書数は、全館で 256,847 冊
- ②郷土資料 7,173 冊

【課題】

- ①限られた予算の中での利用者の多様性や時代に即した資料の収集

外部評価委員の評価点 平均 4.0 点

『民間活力の導入・広域利用の促進』

【成果】

- ①スポンサー 7 社 13 誌 （前年度比△2 社 5 誌）
- ②鹿児島連携中枢都市圏（鹿児島市、いちき串木野市、日置市による利用者数は 1,714 人（前年度比＋207 人）、貸出冊数は 6,911 冊（前年度比＋706 冊）であった。広域利用については、館内掲示利用登録者への周知を図った。
- ③おはなしボランティアあいは毎月 2 回、装丁ボランティアはなみずきは毎月 1 回、朗読ボランティアなでしこは毎月 1 回図書館で定期的な活動をされ、あいはについて図書館フェスティバルでもおはなし会を実施していただいた。

④包括連携協定企業の第一生命保険を講師に招き、図書館ふれあい講座「エンディングノートの書き方」を実施、25名の参加

【課題】

- ①雑誌スポンサー活用の広報
- ③ボランティアの減少、高齢化、研修体制

外部評価委員の評価点 平均 4.0 点

『心地よい居場所づくりとしての図書館づくり』

【成果】

- ①ふれあいプラザ・・・22回／年、延べ 255 日間
- ②毎月の展示やおすすめ本の紹介
- ③こども映画会 101 回 1,568 人、水曜映画会 99 回 2,263 人

外部評価委員の評価点 平均 4.2 点

『家庭・地域・学校等における読書活動の推進』

【成果】

①子ども読書活動推進事業「ものがたりレシピをいただきます」では、希望校 12 校（1,811 人）への出前読み聞かせや、読書食べ物ビンゴ、読書感想記入リーフレット等の取組により読書啓発、推進に努め、多くの子どもたちが楽しみながら取り組む様子が見られた。

②4月23日子ども読書週間の啓発として、中央、加治木、蒲生それぞれで読書福袋やスタンプラリー等を実施し、読書推進を行った。
参加者数合計 215 名

③ブックスタートセット配布数 570 人

④移動図書館車「あいあい号」で保育園、幼稚園、小中学校の巡回（29 か所）や、各施設を対象とした巡回図書（22 か所）を実施し、図書館に出向くことができない子どもたちへの読書活動の推進を行った。利用人数 8,837 人（前年度比△327 人）、貸出冊数 24,261 冊（前年度比△836 冊）

外部評価委員の評価点 平均 5.0 点

『図書館イベントの円滑な運営』

【成果】

- ①・ふれあい講座（初心者向け写真教室等）・・・3講座 64人
・図書館講演会・・・83人

始良市内の絵本作家「しおみつ さちか」さんをお招きし、「はじめての絵本ができるまで」の講演のほか、ポストカードのプレゼントやサイン会も行い、多くの市民の方へ、生涯学習を支援する図書館として情報発信ができた。

- ・読み聞かせ講座・・・35人

その大切さやノウハウを学ぶ講座を実施し、家庭や学校、地域において、読書活動を推進する人材の育成に務めることができた。

- ②夏休み図書館講座・・・3講座 88人

小学生を対象に、工作教室、理科教室、読書感想文教室を開催し、夏休みの課題や自由研究に役立ててもらったり、学習機会の提供及び図書館利用の推進を図ることができた。

- ③定例 38回 751人

おはなし抱っこの会 11回 235人

出前おはなし会 10回 510人

夏休みお話し会・・・128人

2階にある視聴覚室において大型スクリーンへ投影させた絵本の読み聞かせやクイズなどを行い、館内でお化け屋敷を開催し、子どもの読書への興味・関心を高め、改めて読書の楽しさを感じてもらう機会とすることができた。

- ④図書館フェスティバル（入館者 1,806人/貸出 254人/1,126冊）
映画会 138人、おはなし会 61人、クイズラリー180人、工作（3か所）236人、ビブリオバトル 20人、あいあい号見学 139人

外部評価委員の評価点 平均 5.0 点

『視聴覚ライブラリーの充実』

【成果】

- ①各小・中学校へ利用方法の周知を図り、広報に努めた。
- ②上映権付の教材を上映会用に借用し、映画会で活用した。

【課題】

時代に即応した機材の更新、視聴覚資料の更新に向けた資料選定。

外部評価委員の評価点 平均 3.4 点

2. 始良市立図書館ネットワークの充実

『図書館システムの有効活用』

【成果】

始良市立図書館ネットワークの充実については、①新規利用申込者には、ウェブサービス、おサイフケータイについて案内し、ホームページ、広報紙による周知を図った。ウェブサービス新規登録者は 130 人で累計 1,736 人となり、予約件数 10,275 件のうちウェブによる予約は 3,229 件であった。おサイフケータイ新規登録者は 26 名で、累計 454 名となった。

②各図書館（室）間の配送業務（毎日）、定期的な分室巡回配本（5 館×年 6 回）を行っている。を安定的に行い、各地区公民館図書室とも連絡を密にし、予約・返却資料の配本・回収等迅速に対応した。地区公民館図書室職員との連携が図られてきたことにより地域の利用者に応じた対応が図られてきている。

③相互貸借を活用し、利用者の求めに応じたい資料を提供した。県立図書館や、市立図書館から借用した冊数は 926 冊、貸し出した冊数は 102 冊であった。

【課題】

相互貸借では使送便のない図書館間の送料や貴重資料の取り扱いが課題である。

外部評価委員の評価点 平均 4.2 点

5 保健体育課の成果と課題

1. 生涯スポーツの推進

【成果】

生涯スポーツの推進については、①スポーツ協会、レクリエーション協会、スポーツ推進委員、包括連携協定企業、総合型地域スポーツクラブと連携を図り、市民の体力づくり、健康増進事業、各種イベントなど、「いつでも、どこでも、だれでも参加できるスポーツ」を実施し、生涯スポーツの推進及びレクリエーションの普及を図った。

②ホームページまたはInstagramなどの SNS の活用、学校児童便などを利用したイベントの情報発信を行い、スポーツイベントへ年間 10,149 人の参加があった。

(主な生涯スポーツ・スポーツイベント事業)

・レクリエーション体験会	136 人
・わくわくウォークラリー大会	61 人
・全国少年少女プロ野球 OB 教室	135 人
・あいらスポーツフェスタ	3,601 人
・義弘公奉賛武道（弓道・剣道）大会	1,106 人
・市駅伝競走大会	339 人
・生涯スポーツ市民講座 16 講座	4,526 人

③スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブと定例会や研修会を開催し、連携しながら各種事業に取組み、地域におけるスポーツの普及を図った。

【課題】

SNS を活用した周知をさらに積極的に行い、多くの方がスポーツへの関心を持つようなきっかけづくりに努める必要がある。

スポーツ推進委員の高齢化が進んできており、今後、人材不足が懸念される。地域からの推薦など、情報収集に努め、持続可能なものとする必要がある。

外部評価委員の評価点 平均 4.8 点

2. 競技スポーツ、スポーツ環境整備の推進

【成果】

競技スポーツ、スポーツ環境整備の推進については、①各団体へ活動補助金を交付し、組織力の強化及び所属団体への活動支援を実施した。また、スポーツ少年団指導者を対象とした研修会を実施した。

全国大会等に出場した個人・団体に対して奨励金を交付し、活動支援を行った。（年間 337 件 3,035 千円）

スポーツキャンプは、薩摩おいどんカップの出場チームや知的障がい者サッカー日本代表や韓国的高校など、プロアマ問わず合宿誘致を行った。また、合宿の際には、指定管理者と連携し、合宿チームの要望等を共有した。また、特産品などの提供をするなど今後における継続した合宿誘致を行い、身近なスポーツ観戦機会の創出を実施した。

（スポーツ合宿の実績）

・ 日本経済大学硬式野球部	3 2 日間
・ 知的障がい者サッカー日本代表	4 日間
・ 韓国東山高校野球部	1 3 日間
・ 韓国蔚山現代 FC	4 日間
・ JR 東日本野球部	8 日間
・ 西南学院大学硬式野球部	6 日間

（年間利用者数）

・ ビーラインスポーツパーク始良	230,594 人
・ 始良体育センター	42,093 人
・ 蒲生体育施設	84,112 人
・ 加治木体育館	32,343 人
・ 加治木運動場	53,755 人
・ 始良弓道場	6,214 人
・ 加治木弓道場	8,299 人
・ 蒲生弓道場	3,251 人

【合計】 460,661 人

②かごしま国体開催年度で、施設の躯体に係る大規模改修は行わず、設備取替や修繕を中心に実施した。また、指定管理者と連携を行い、利用者の要望を共有し、利用者数の増加が図られた。

【課題】

スポーツキャンプの誘致について、県や関係団体との連携を強化し、県内

外にアピールする方策を検討する必要がある。

各体育施設の老朽化が進んでおり、計画的な維持補修を行い、利便性の向上と利用者数の増加を図る必要がある。

外部評価委員の評価点 平均 4.6 点

3. 体力・運動能力の向上

【成果】

体力・運動能力の向上については、①各学校に「運動大好き”かごしまっ子”育成推進プラン」を作成させ、体力向上に向けた目標や取組内容を設定させるとともに、数値化された結果を基にした分析で改善策を立案するよう進めることができた。

「市小中学校体育主任研修会」や「体力・気力アップ始良っ子育成研修会」の実施により、教師の体力向上への意識向上や投力を向上させる指導の在り方について推進した。（市内全小中学校から参加）

全国体力・運動能力調査の結果では、体力合計点で本市の小学校男女、中学校男子が県平均を超えた。

②「体力アップ！チャレンジかごしま」へ市内全ての学校が参加し、県内ベスト10に小学校7校（のべ16学級）中学校3校（のべ6学級）が入り、重富小が2年連続、学校賞を受賞した。

【課題】

①「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における質問項目において「保健体育の授業で、目標を意識した学習で「できたり、わかったり」」することに「いつもある」と回答した児童生徒が令和4年度より増加したが、全国平均を下回っている。

また、体力合計点は、小中学校・男女共に、全国平均を下回っている。

②一校一運動の取組が週1～2回以下の学校が5校みられる。

外部評価委員の評価点 平均 4.0 点

4. 健康教育の充実

【成果】

健康教育の充実については、①学校保健安全法に基づき、健康診断や就学時検診を実施し、疾病等に関して指摘があった子どもの保護者へ、就学前に治療を行うよう指導することができた。

また、アレルギー疾患を有する児童生徒への対応については、市教委作成の「学校におけるアレルギー疾患対応の手引き」に従った適切な対策を講じたほか、薬物乱用、自殺予防、がん教育など様々な健康課題についても、各学校へ情報提供を行い啓発に努めた。

②新型コロナウイルス感染症対策については、国の補助金等を活用した空気清浄機等の換気対策用品の購入を推進し、感染症対策の充実を図ることができた。また、5月以降も継続して、感染者数を把握し、適宜、学校へ感染状況の情報提供や注意喚起をした結果、インフルエンザによる学級閉鎖はあったものの、新型コロナウイルスによる学級閉鎖はなかった。

【課題】

むし歯の治療治療率が令和4年の実績で小学校61.8%、中学校48.7%でここ数年、成果が上がっているものの県平均（小学校63.3%、中学校51.7）には至っていないことから、今後も治療率の向上に向けた指導を継続的に行っていく必要がある。

外部評価委員の評価点 平均 4.4 点

5. 安全・安心な学校づくり

【成果】

安全・安心な学校づくりについては、①令和5年度の交通事故発生件数は、10件と昨年より3件減少した。通学路安全アドバイザー1人やスクールガードリーダー4人を委嘱し、各校区の通学路の安全体制の充実を図った。

②避難訓練等の実施方法や危機管理マニュアルの見直しを各学校に促し、関係する教職員や児童生徒等の危機管理意識の向上を図るよう指導を行った。

③始良市通学路安全プログラムに基づき、関係機関と連携した取組の充実を図ることができた。特に市内5校1園については、合同点検を行い、12箇所中7箇所の改善が年度内に図られた。

水難事故防止の観点から、校区内の危険箇所を点検させ、赤旗を設置した。令和5年度の水難事故の報告は0件。

【課題】

始良っ子見守り隊の登録人数が599人（令和4年度630人）と減少傾向にあることから、登録人数を確保するための方策を検討する必要がある。

外部評価委員の評価点 平均4.4点

6. 食育の推進

【成果】

食育の推進については、食に関する指導の充実について食育推進事業として次の4つの事業に取り組んだ。

- ・食育推進校の指定（錦江幼稚園、西始良小学校、加治木中学校）
- ・食育講演会の開催（2月3日（土）始良公民館 230人出席）

食育講演会では、「燃ゆる感動かごしま国体」の開催年度ということで、食とスポーツに焦点を当て、その分野で活躍しているKAGOSHIKA食スポーツの田畑先生をお招きし、「成長期における栄養サポート」をテーマに講演いただいた。

- ・調理員等スキルアップ研修会（7月・12月 2回実施）
- ・市が実施する出前講座のメニューに「始良市の学校給食」のテーマを新たに加え、給食の普及に努めた。（6月8日（木）柁城小学校 PTA 研修部 12名参加）

【課題】

食育の推進を図るために、保護者等にとって興味のある講演内容であったり、講演以外の催しなどの検討を行い、適切な食育の推進につなげることが重要である。

外部評価委員の評価点 平均4.2点

7. 学校給食の充実

【成果】

学校給食の充実について、①安全・安心な学校給食の提供では、給食運営委員会や栄養教諭連絡調整会の開催などに取り組んだ。

「食物アレルギー対応の手引き」に基づいて、全小・中学校で統一した取り組みを行った。また、栄養教諭や調理従事者等による徹底した衛生管理によって、食中毒関連の事案は発生しなかった。

新たな学校給食センターの供用も控えており、今後、食育の推進や地域貢献などの観点から、地元産食材の活用を取組を更に進めていくため、新規に（一財）都市農山漁村交流活性化機構の「地産地消コーディネーター派遣事業」を活用して、生産者側と発注者側それぞれの課題等を抽出するための意見交換会を開催した。

食用油や小麦粉などの価格高騰に伴い、食材購入に苦慮する各給食施設へ新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して運営を補助することにより、保護者の負担軽減に努めた。

②施設の充実については、調理機器の計画的更新を行いながら、設備の修繕にも迅速に対応し、調理作業の効率化を図った。

③新学校給食センターの整備については、4月から整備・運営に係る事業手法の可能性を調査する業務を行い、その結果からPFI手法を採用することとし、7月の基本計画策定と併せて公表した。その後、PFI事業者の特定に係る支援業務の受託者を、公募型プロポーザルで選定し、契約締結後は、スケジュールどおりに業務を進めた。

④学校給食費の公会計化を導入するため、システムの選定や各学校へ滞納整理簿作成依頼など幅広い業務を行った。また、令和6年度の学校給食費等を定めた「始良市学校給食費等に関する条例施行規則」を制定した。

【課題】

新学校給食センター整備では、市民に対して事業の進捗などの周知を図りながら進めていく必要がある。

また、令和6年4月からの学校給食費の公会計化に伴い、過年度未納分の債権の譲渡手続きや保護者への周知を行う必要がある。

外部評価委員の評価点 平均 4.4 点

6 国体推進課の成果と課題

1. 国民体育大会、全国障害者スポーツ大会の開催

【成果】

①競技会の開催

本市で開催された競技会の開催準備及び競技会運営を適正に行った。特別全国障害者スポーツ大会については、実施主体となる県実行員会と連携し競技会の運営をサポートした。

（ア）開催競技の開催

日本スポーツ協会、県及び競技団体と連携し、開催競技の実施要項等に基づき競技会を開催した。

（イ）宿泊衛生

競技会へ参加する選手・監督等の配宿業務、弁当調達業務、医療体制の整備及び救護所の設置を行った。

（ウ）輸送交通

競技会へ参加する選手・監督、大会関係者及び一般観覧者の輸送を行った。また、競技会場の安全を確保するため防災・警備業務を行った。

（エ）歓迎おもてなし

各競技会場の歓迎装飾や、市内高校生や市観光協会及び市民団体等が市特産品のおふるまいを実施し、全国から来場する多くの方々を歓迎し おもてなしを実施した。

②市民運動の推進及び機運醸成

市内小中高校と連携した取り組みの推進や花いっぱい運動、あいさつ運動等を通じて市民の開催機運の醸成を図った。また、市民ボランティアによる大会運営サポートや地域、市内関係団体・企業と協力して市民総参加の歓迎おもてなしに取り組んだ。

（ア）学校観戦、（イ）都道府県応援のぼり旗、（ウ）あいさつ運動・出張授業、（エ）国体ソング・ダンスの推進、（オ）花育てリレー、（カ）ボランティア、（キ）企業協賛

③各種イベントの開催

かごしま国体開催 100 日前の節目イベント及び、全県下ひとつなぎのルートで実施される「炬火リレー」を実施した。他のイベント等と連携した PR 活動や SNS を利用した情報発信を図った。

④鹿児島・佐賀エールプロジェクト

本市開催競技やかごしま国体関連イベントに加え、SAGA 国スポに関連するイベントやリハーサル大会を通じて佐賀県会場地市との観光・文化・スポーツ等の交流を推進した。

外部評価委員の評価点 平均 5.0 点

Ⅲ 教育委員の点検・評価・意見・要望等

教育総務課関係

1. 教育委員会の活性化の推進

- ◆ 会議資料は事前に配付され、しっかり目を通してから定例会に臨むことができた。
- ◆ 会議の3日前までには資料が届き、事前に目を通すことができ、定例会に臨むことができた。また、補足資料等も適宜準備されており、丁寧な説明のもと時機を逸することなく十分に審議することができた。
- ◆ 定例教育委員会においては、事前に資料も届き、協議内容等を確認して会議に臨むことができた。会議では、説明も丁寧で、協議内容を十分に審議することができた。
- ◆ 総合教育会議では、市長との話し合いを通じて、部活動の地域移行についての現状と課題を共通理解することができた。
- ◆ 総合教育会議においては、テーマに即した意見交換が行われ有意義な場となった。
- ◆ 総合教育会議においては、部活動の地域移行について、十分ではないが市長と意見交換ができた。
- ◆ 教育委員の県外研修として東京都に行ったが、知識を深めるだけでなく、国会議員や文部科学省の職員とも話す機会があり、大変有意義だった。
- ◆ 県や地区・市主催の教育委員の協議会や研修会へ参加した。東京都での研究協議会では2日間の研修に参加し、研鑽を積むことができた。また、不登校対策として江東区ブリッジスクールの視察はとても有意義であった。
- ◆ 研修が充実していた。特に不登校対策として江東区へ訪問できたことは大変有意義なものだった。今後も様々な研修に参加し始良市の教育の充実に向け、自身の資質向上に努めたい。
- ◆ 学校訪問では、各学校の特色や課題など目にすることができた。
- ◆ 学校訪問では、経営の説明や指導主事の指導を聞き、状況を把握することができた。

2. 適正な人事管理業務の推進

職員の資質向上と健康管理の保持

- ◆ 各種研修会に計画的に職員を参加させている。
- ◆ 職員の人材育成を目指した研修などが計画的に実施されている。

- ◆ 各種研修については、時間の許す限り参加して、自己研鑽に努めていただきたい。
- ◆ 実施予定だった研修会や委員会をぜひ今後開催して欲しい。
- ◆ 健康診断やストレスチェックなどが計画的に実施されている。
- ◆ 健康診断や人間ドック等，健康管理面が適正に行われている。
- ◆ 健康診断は全員受診するよう促し、健康な状態で業務に従事していただきたい。

3. 適正な財務事務の推進

財務事務の効率的な運営・適正な予算の編成及び執行

- ◆ 学校の会計事務や備品監査が適正かつ適切に行われている。
- ◆ 事務職員研修会が計画的に実施されていた。適正な予算執行がなされている。

4. 良好な教育環境整備の推進

安全・安心な学校づくりと教育施設整備・教育環境整備状況

- ◆ 校舎や屋内運動場などの改修・建替えには、多くの予算が必要となる。今後とも計画的に進めて行かねばならない。
- ◆ 計画的に進められているので、安心安全な環境整備に努めてほしい。
- ◆ 今後も、可能な限り環境整備に努めて欲しい。
- ◆ 計画的に進められている。

学校教育課関係

1. 規範意識を養い豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育の推進

豊かな情操・感性を育てる道德教育の充実

- ◆ 学級経営研修会での対象教員を初任１・２年目だけでなく３・４年目や臨時的任用教員にも広げたことで、学級経営力を高めることができたと思う。大いに評価できる。
- ◆ モラリティ・インクルーブメント推進事業で、これまでの実践推進校は道德的取組をしてきている。これからも継続的に活動を進めていくことが必要

である。

- ◆ モラリティ・インクルーブメント推進事業では、毎年実践推進校の発表があり参加しているが、学校・地域・保護者だけでなく児童生徒の参加もあり、さらに有意義な時間となっていると思う。素晴らしい取組である。今後も続けてほしい。
- ◆ 「ハートフルあいらんど」では、「ことばのいずみコンクール」での優秀賞受賞者のスピーチコンテストがとても素晴らしい。今後も続けてほしい取組である。
- ◆ 今後も、協議や講演会をとおして、地域・家庭に対して道德性の向上を図ってほしい。
- ◆ 三者協働による道德教育の啓発が積極的になされている。

児童生徒の心に届く生徒指導の充実

- ◆ 不登校対応は、本市だけでなく全国的な課題である。これまでもいろいろな対策はしてきているものの特効薬的な手立てはなかなかない。先進地の取組情報を探るなど努力を続けていただきたい。
- ◆ それぞれの事業で効果をあげている。適応指導教室の効果も表れている。今後もあいびあとの連携による総合的な支援をより一層深めていただきたい。
- ◆ 適応指導教室にも通室出来ない児童生徒の支援について皆で考えていかなければならないと思う。
- ◆ スクールカウンセラーの配置により、連携を深め支援に繋がった事は、評価出来る。今後も、不登校児童生徒の効果的な支援に努めていただきたい。
- ◆ 前年度より適応指導教室への通室児童数が減っているが、もう少し通室しやすい環境づくりや取組を検討する必要がある。

人権教育及び体験活動や読書活動の充実

- ◆ 学校の重点項目には、どの学校も必ず人権に関することが明記されており、職員研修でも実施するようにしている。内容がより充実するよう努力していく必要がある。
- ◆ 人権教育の重要性を広める啓発と研修・講演会等を計画的に行い、今後も人権教育の推進を継続してほしい。
- ◆ 集団宿泊学習や小中合同音楽会については、コロナ禍以前のように実施することができよかったと思う。
- ◆ コロナも、落ち着いてきたので、従来の形に戻して、人権教育の充実を図っていただきたい。
- ◆ 体験活動をとおして豊かな心を育む機会が保たれている。今後もさらに充

実するよう企画・運営をして欲しい。

幼児教育の充実

- ◆ 幼・小交流学习が行われ、接続が図られたことは良かった。
- ◆ 幼保小連携研修会をさらに充実し、小学校への接続が円滑に進められるようお願いしたい。
- ◆ 公立幼稚園の園児数を確保するために園の魅力や活動などについて発信する手立てを講じてほしい。
- ◆ 各種研修会の充実を図り、時期を検討して幼小の交流を推進して欲しい。
- ◆ 計画的な研修会が充実している。

2. 能力を伸ばし、社会で自立する力をはぐくむ教育の推進

「確かな学力」の定着

- ◆ 学力向上アクションプランの中で、小中共通実践事項を決めているが、学校訪問の際に実践の様子を目にすることができる。素晴らしいと思う。
- ◆ 各中学校ブロックごとの小中連携による様々な取組が学力向上に反映されている。
- ◆ 市内全教職員対象に不登校の未然防止のための学級経営の充実についての教育講演会を実施されたことを評価する。
- ◆ 様々な取組をして、学力向上や授業づくりに取り組んでいるが、更なる改善や工夫を図っていただきたい。
- ◆ 各ブロックごとの連携が学力向上に繋がっているが、中学校に上がったあとが課題である。

理数・外国語教育の充実

- ◆ スーパーサイエンス総合推進事業に参加した子供たちが、知識だけでなく興味や関心をより高めていくことを期待している。
- ◆ 理数、外国語教育充実のために様々な事業が行われている。コロナ禍の中、児童生徒だけでなく教職員も理数、外国語について研修を深めることができる。大いに評価できる。
- ◆ あいらぶサイエンス講座やサイエンスあいらんどは、様々な活動を通して科学に触れる良い体験ができてとても良い取組である。今後も、続けてほしい。
- ◆ 今後も継続して、研修・講演会など色々な形で行っていただきたい。更に実

技演習等の組み込みも検討下さい。

- ◆ 今後も課題に向け充実した内容を継続して欲しい。

特別支援教育や情報教育の充実の推進

- ◆ 特別支援学級増設への対応や特別支援教育支援員の配置等は現状に応じて行われている。
- ◆ 多様な特別な支援を必要とする児童生徒が増加していることから特別支援学級担任において専門性向上のため研修会等での資質向上に努めていただきたい。
- ◆ 特別支援教育支援員を対象とした研修会で、自立活動に関する研修ができたことで支援の質の向上につながったことは大いに評価できる。今後も続けてほしい。
- ◆ 就学に関することで多種多様な工夫をされていて効果も表れてきている。今後も続けてほしい。
- ◆ 福祉サービスを利用している幼児・児童生徒が増えており、教育と福祉の連携について、より具体的な方法を協議していただきたい。
- ◆ ICTを活用した授業づくりについて、特別支援学級での端末の活用では、個別最適化された活用について研修が必要なのではと思う。学校によって、活用の仕方がまちまちのように思う。
- ◆ 今後更に特別支援を必要とする子どもが増える事が予想され、研修の充実と人材の確保は大きな課題である。ロイロノートを活用した授業実践の増加は評価出来る。
- ◆ 人員の確保が難しいところでもあるが、連携強化と研修の充実を今後も継続して欲しい。

進路指導・キャリア教育の充実

- ◆ 協力いただいている175事業所に感謝する。ここでの職場体験が生徒達の未来にとって有益なものになると思う。
- ◆ 中学校における職場体験学習を受け入れてくださった各事業所の方々に感謝したい。
- ◆ 職場体験学習、職場体験は、子ども達にとって、大変良い経験になる。更なる環境整備の充実を図っていただきたい。
- ◆ すべての学校が職場体験学習を実施できたことは素晴らしい。

体験活動や郷土教育の充実

- ◆ 総合的な学習の時間では、地域の自然や人などを活用し、学校の特色を十分に生かしたものとなっている。
- ◆ 学校ごとに特色ある教育活動がなされている。郷土の良さや社会貢献についてさらに充実させる取組をしてほしい。
- ◆ 特色のある活動をされている学校が、多数ある。子ども達に、郷土の良さを実感して欲しい。
- ◆ ふるさとを愛する心が育つ取組をどんどん進めて欲しい。

3. 児童生徒や保護者、地域に信頼される学校づくり

魅力ある学校づくりの推進

- ◆ 学校訪問時に校長からグランドデザインの説明を聞き、質疑することによって経営の基本方針や具体策がよくわかった。
- ◆ 全職員に浸透するよう努めてほしい。
- ◆ 学校経営で顕著な成果を導き出した学校を選定し、取組内容を発表することで学校経営改善の視点を市内全校で共有されたことは、他の学校への刺激となり、今後改善されると思う。
- ◆ 学校評議員会、学校関係者評価委員会における委員の学校に対する評価や意見等を踏まえて教育活動の改善につなげることが、学校によって差があるのではないかと思う。
- ◆ 全ての学校が、素晴らしいグランドデザインを示されているので、是非、全職員で共有していただきたい。
- ◆ 職員に浸透させるよう様々な努力が見える。

学校運営の充実及び教職員の資質向上

- ◆ 管理職研修会は、年間を通じ計画的に実施され、資質向上が図られている。
- ◆ 学校訪問では園や学校の特色や課題が分かり、課題解決策についても話し合われている。
- ◆ 計画に基づいて研修が行われており、今後も継続して教職員の資質向上をお願いしたい。
- ◆ 管理職研修会や学校訪問が計画的に実施され、課題に向き合う機会も多く評価できる。

小規模校・複式教育の充実

- ◆ 小規模校の良さを生かした一人一人に届く指導や特色ある活動がなされている。特認校を希望する児童も一定数いる。
- ◆ 小規模校ならではのきめ細やかな対応や特色ある活動などを紹介し、特認校制度について多くの地域や保護者に周知する手立てを行うことができている。
- ◆ 特認校同士の連携を今後も進めていただき、充実を図っていただきたい。
- ◆ 合同説明会はとても良い。今後も各校特色を生かしながら児童に寄り添えるようにして欲しい。

教職員の業務改善

- ◆ 業務改善が進み、在校時間が減ってきているが、目標までは達成できていない。今後もしっかり取り組んでいく必要がある。
- ◆ 業務改善に対する教職員の意識改革がなされている。職員の勤務時間に対する意識が改善されたことは評価できる。今後は課題解決に向けて取り組んでほしい。
- ◆ 勤務時間の中で、業務改善など、意識して行っていただきたい。
- ◆ 業務改善について少しずつ成果が出てきている。今後も継続して欲しい。

社会教育課(社会教育係)関係

1. 社会教育の基盤づくり

関係機関との協力体制の強化及び職員の資質向上

- ◆ 社会教育委員の会では、毎回研究テーマを設けており、その提言内容を事業に反映するなどしている。
- ◆ 委員からの提言を受けて実施、反映されたことは大いに評価できる。
- ◆ 職員への研修会参加がスムーズに行われるよう工夫し資質向上に努めていただきたい。
- ◆ ご意見を直ぐに事業に生かした事は、素晴らしい。研修等に積極的に参加し内容を共有することは、続けていただきたい。
- ◆ 委員からの意見を反映できたことは素晴らしい。

社会教育リーダーの育成及び社会教育関係団体との連携強化

- ◆ リーダーを対象とした研修会には各団体から参加しており、リーダー育成が図られている。
- ◆ 組織加入者の減少している団体への支援について毎年課題として挙げられているが、今後について具体的に教えてほしい。
- ◆ 若い世代への情報発信としてSNSを計画しているとのことだが、積極的に取り組んでほしい。
- ◆ タイムリーな実施報告には賛成です。若い世代へ向けての情報発信を是非、心がけて欲しい。
- ◆ 子ども会の加入率減少は今後も支援が必要である。

2. 青少年教育の充実

生きる力を備えた青少年の健全育成

- ◆ 青少年を対象とした育成事業は、他市町と比べても充実していると思う。
- ◆ 様々な事業は、子どもたちの経験と財産になったと思う。参加した子どもたちがやがてリーダーとなって活躍してくれることを願っている。
- ◆ 企画される事業は、子供たちにとって、良い経験になると考えます。今後も事業を継続し貴重な体験の場にしていただきたい。
- ◆ 今後も広報活動で周知し認知度を上げてほしい。

3. 家庭教育・成人教育の充実

家庭教育の充実

- ◆ 子育て手帳、ラジオ番組、家庭教育学級、家庭教育フェスティバルなど、家庭教育の充実に向けた多くの方策を立てている。
- ◆ 家庭教育学級や子育てサロンなどでたくさんの方が講座へ参加し、悩みなどの共有や情報共有できたことは素晴らしいことである。特に、家庭教育サポーターによる子育てサロンでは、日頃接する機会の少ない方々との情報共有は、とてもありがたい場であったと思う。大いに評価できる。今後も続けてほしい取組である。
- ◆ 今後も講演会や子育てサロンなど、交流の場を数多く企画していただきたい。
- ◆ 子育て手帳の認知度アップを今後も継続してほしい。

成人教育の充実・人権教育の推進

- ◆ 人権教育を全事業の中で定期的に行っている。
- ◆ 生涯学習の場が充実していて評価できる。
- ◆ 更なる生涯学習の場の拡充や人権教育の定期化を続けてください。

4. 社会教育施設の充実と利用促進

- ◆ すべての施設で昨年度より入場者数が増加した。これからも多くの市民が利用できるよう広報や運営に努める必要がある。
- ◆ 各事業ともに利用者も増加している。年々内容も充実しており、今後も続けてほしい取組である。
- ◆ 老朽化による施設の修繕を行いながらではありますが、色々な団体と連携を図りながら、利用促進に繋げてください。
- ◆ 空の写真展の試みが素晴らしい。市PTAの広報誌にも案内を掲載したが、小中学生の応募数が少ないのは残念だ。

社会教育課(生涯学習係)関係

1. 生涯学習の推進

- ◆ 地元出身の川崎宗則選手が講師ということで盛り上がったのではないかな。
- ◆ 毎年生涯学習フェアでは、様々な分野のゲストを招き行われている。素晴らしい。
- ◆ 生涯学習フェアでは、幅広い年齢層の来客があり良かった。

2. 芸術文化活動の振興

- ◆ 子どもたちに様々な芸術を身近に感じられる機会となっている。今後も継続してほしい。
- ◆ 少年少女合唱団の団員減少は毎年の課題となっているが、素晴らしい取組であるため団員確保に力を入れていただきたい。
- ◆ 少年少女合唱団への入団希望者が増えるように市民に見えるPR活動をしてほしい。
- ◆ コロナ過以前の状態に戻して開催することが出来て良かったです。

3. 公民館施設の充実

- ◆ 計画的に施設の維持管理を進めていく必要がある。
- ◆ 今後も安心安全に維持できるように計画的に整備をお願いしたい。
- ◆ 計画に基づいた維持管理に努めていただきたい。

4. 公民館事業の充実

- ◆ 生涯学習講座数は8講座増、受講者数も128名増となり、工夫・努力が伺える。
- ◆ 若年層の受講者数を増やす工夫をお願いしたい。
- ◆ 子育て世代・就労世代が受講しやすい講座の検討をお願いします。
- ◆ 年々増加していることで今後の展開が期待できる。

社会教育課(文化財係)関係

1. 指定文化財登録文化財の保存・活用

- ◆ 県内でも有数の文化財数を誇る本市であるが、維持管理は大変である。そのような中、昨年に引き続き文化財説明板の設置・修繕に協力いただいた加治木ロータリークラブに感謝したい。
- ◆ 解説板の修繕は、加治木ロータリークラブのご協力に感謝したい。
- ◆ 今後も学校教育との連携を深めて、児童生徒が始良市の文化財に触れる機会をこれまで以上に増やしてほしい。
- ◆ 新聞や市報などの積極的な情報発信によって、児童生徒が実物に触れ、歴史を身近に感じる機会を増やしていただきたい。
- ◆ 文化財に関する情報発信を今後も積極的にして、市民が興味を持ち身近に感じる機会を作してほしい。

2. 埋蔵文化財の保存・活用

- ◆ 前田遺跡の貴重な出土品をもっとアピールする方法を考え、広く周知してほしい。
- ◆ 前田遺跡調査成果の一般公開やその他の遺跡についての調査や成果の公表・展示の計画など今後に期待している。
- ◆ 前田遺跡調査成果の一般公開やその他の遺跡についての調査や成果の公表、展示の計画など今後に期待している。
- ◆ 総括報告書に向けて、詳細な分析調査の実施をお願いしたい。

- ◆ 総括報告書を楽しみにしています。

3. 郷土芸能の保存・育成

- ◆ 郷土芸能の保存・育成に、今後とも支援・補助を行っていく必要がある。
- ◆ 郷土芸能を保存・継承していくことは、とても大変だと思う。今後も保存会に対して支援を続けてほしい。
- ◆ 伝統行事の継承は大変なことだと思いますが、保存会と協議をされて可能な限り継承をお願いしたい。
- ◆ 今後も支援を継続して欲しい。

4. 施設の充実

- ◆ 特別展を開催できて良かった。毎年大変ではあろうが、普段目にすることができない資料を見たいと思っている市民は一定数いると考える。
- ◆ 夏休みの体験学習会など子どもや保護者が気軽に参加できるよう周知してほしい。
- ◆ 学校教育や生涯教育とも連携を図り、利用促進の周知をお願いしたい。
- ◆ 運営審議会でもいただいた様々な意見をもとに、各種講座等を工夫し、入館者の増加を図っていただきたい。
- ◆ 広報活動は評価できるが、入館者数に繋げていただきたい。

図書館事務局関係

1. 図書館のサービス業務と読書活動の充実

図書館利用の促進

- ◆ 中央図書館は静かで整然としており、落ち着いた雰囲気を保っている。
- ◆ 市内全体を見ても、入館者・貸出人数とも増えている。
- ◆ 入館者数が増加していることはとても喜ばしい。今後もすべての利用者を意識した多種多様な図書館サービスの提供をお願いしたい。
- ◆ 年間を通して、通常通りの開催で良かったです。利用者の増加も良かったです。

図書館資料の充実・活用

- ◆ 話題になった本だけでなく、いろいろな情報を集めた上で、計画的に資料を購入していく必要がある。
- ◆ 予算の中で、できる限りニーズに沿った資料収集を今後もお願いしたい。

民間活力の導入・広域利用の促進

- ◆ 広域利用サービス向上をお願いしたい。
- ◆ おはなし会は、未就園児を持つ親子が楽しみにしている会である。これからもボランティアの方々の負担軽減に努めながら続けてほしい。
- ◆ ボランティアの方々には感謝している。今後もボランティアの募集・育成等に努めていく必要がある。
- ◆ 包括連携協定企業の講座は興味深い。

心地よい居場所としての図書館づくり

- ◆ 年間の7割近い期間、ふれあいプラザが活用されている。
- ◆ 図書だけではなく魅力ある企画や展示を今後も継続してほしい。

家庭・地域・学校等における読書活動の推進

- ◆ 県から読書活動推進優良図書館等表彰を受けたことはとても喜ばしい。現在の活動を続けてほしい。
- ◆ 県教育委員会からの表彰は、学校などへの出前読み聞かせなどへの読者啓発、推進が認められたことにあると思う。素晴らしい。
- ◆ ブックスタート事業は、乳幼児期からの読み聞かせの大切さを知らせる素晴らしい取組である。さらに充実できるよう取り組んでほしい。
- ◆ 様々な取組がなされている。

図書館イベントの円滑な運営

- ◆ 図書館らしいイベントが開催された。これを機に図書館を利用する市民が増えればと願う。
- ◆ 幅広いイベントの開催に多くの利用者が参加してくださり、取組の成果があった。大いに評価する。
- ◆ 今後も充実した取組、広報をお願いしたい。
- ◆ 今後も市民が楽しめるイベントを企画してほしい。

視聴覚ライブラリーの充実

- ◆ 視聴覚ライブラリーの教材を利用する団体は少なくなっているが、教材の内容は質の高いものである。利用されるための広報に努める必要がある。
- ◆ 手軽に情報を得られる時代なので今後もっと厳しくなるのではないかと思う。

2. 始良市立図書館ネットワークの充実

図書館システムの有効活用

- ◆ ウェブサービスとおサイフケータイの登録者が、少しずつではあるが増えている。新規申込者だけでなく既存の利用者に呼びかける必要はないのだろうか。
- ◆ 年々利用者も増えていると思う。今後もより良いサービスの提供を期待している。
- ◆ 引き続きウェブサービスの改善に努めてください。利用推進に繋がると考えます。

保健体育課関係

1. 生涯スポーツの推進

- ◆ 多くのスポーツ関係団体と連携を図りつつ、たくさんのスポーツ大会やイベントを開き、多数の参加者があった。
- ◆ レクリエーション体験会や始良スポーツフェスタ・現役プロ野球選手による野球教室など、子どもたちへ夢と希望を与えられる事業を実施することができたことを大いに評価する。今後もぜひ続けてほしい。
- ◆ SNSを活用した周知をさらに積極的に行い、多くの方がスポーツへの関心を持つようなきっかけづくりに努めてほしい。
- ◆ 今後も、観光協会等との連携を強化・推進し、充実を図っていただきたい。なお、高齢化による人材不足などは課題かと考えます。
- ◆ 様々な取組がなされている。

2. 競技スポーツ、スポーツ環境整備の推進

- ◆ 各施設の利用者数は、昨年より大きく増えている。今後ともスポーツ施設

の整備とスポーツ団体の育成を充実していく必要である。

- ◆ スポーツ合宿を一般の利用者が少ない冬期に設定し、トップチームのプレーを身近に観戦できる貴重な機会と捉え、海外も含めて合宿を実施したことは大いに評価できる。
- ◆ かごしま国体開催年度の影響も考えられるが、第2期始良市スポーツ推進計画まで、利用者数はもう少し。引き続き、利便性の向上と整備を継続していただきたい。
- ◆ スポーツキャンプの誘致は身近にスポーツを感じられるよい機会である。

3. 体力・運動能力の向上

- ◆ 全国体力・運動能力調査で、本市の小学校男女と中学校男子が、体力合計点で県平均を超えたことは良かった。
- ◆ 児童生徒体力・運動能力調査結果を踏まえて、授業改善を推進し運動好きな子供の育成に努めていただきたい。
- ◆ 体力・運動能力の向上に向けた努力・工夫を図っていただきたい。
- ◆ 学校や担任によって偏りがあると感じる。

4. 健康教育の充実

- ◆ 新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月8日から5類感染症になったが、各学校には各学校には感染症対策の用品が充実している。
- ◆ 就学時検診において、保護者への説明周知が不十分だったため、事前の説明をしっかりとしてほしい。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症対策においては、昨年同様適切になされている。
- ◆ 各種検診等については、計画通り実施されている。むし歯の治療治癒率の向上を家庭等と連携して行っていただきたい。
- ◆ むし歯の治療率アップに向け今後さらに指導を強化して欲しい。

5. 安全・安心な学校づくり

- ◆ 始良っ子見守り隊の献身的な活動には感謝の気持ちがいっぱいである。
- ◆ 横断歩道で止まってくれた運転手におじぎをする子どもたちを見ると、学校や地域のつながり・しつけを感じる。
- ◆ 始良っ子見守り隊の方々をはじめたくさんの方々の登下校の見守りに感謝している。見守り隊の登録人数の確保は急務である。また、不審者情報の事

案も昨年より減少しているが油断することなく今後も学校・行政・スクールガードリーダー・安全アドバイザー・始良っ子見守り隊の連携を適切に行ってほしい。

- ◆ 不審者事案は減っているが、ゼロではないので、情報共有を行って、引き続き安全確保に努めてほしい。
- ◆ 今後も保護者、地域の方々の情報も含め危険個所の確認・点検・改善に努めてほしい。

6. 食育の推進

- ◆ 食育講演会には参加者が多かった。これからも広報に努め、更に集客を増やし、食育を推進していただきたい。
- ◆ 食育講演会や出前講座では、保護者の興味関心や学校給食について多くの保護者等に周知してほしい。

7. 学校給食の充実

- ◆ 食中毒関連の事案が発生しなかったことは良かった。これが当たり前のこととして、努力を続けていただきたい。
- ◆ 新学校給食センターの整備については、計画に則り進めていく必要がある。
- ◆ 安心安全な学校給食を提供するための、施設充実が不可欠である。新学校給食センターの整備がスムーズに行われることを期待している。
- ◆ 材料費高騰等、様々な事が起こりますが、安全、安心な学校給食の提供をお願いしたい。新学校給食センターへの移行も引き続きよろしくお願い致します。

国体推進課関係

1. 国民体育大会、全国障害者スポーツ大会の開催

(1) 大会実施に向けた取組

- ◆ 本市での開催協議は、滞りなく行われた。観客数も多く、成功裏に終わった。
- ◆ デモンストレーション競技を皮切りに開催年度のスタートを盛り上げ、「燃ゆる感動かごしま国体」の正式競技「ゴルフ」「ライフル射撃 25m」「バスケットボール」にたくさんの一般観覧者が会場を訪れていた。また、関係

団体や地元の高校生が観覧者や県外の方々に丁寧なおもてなしをしていてとても喜ばれていた。

- ◆ 「ライフル射撃」競技場で始良市ジュニアリーダークラブ「どんぐり」の中高生たちが競技の体験できるコーナーで分かりやすく説明している姿に感動した。とても良い経験になったと思う。大いに評価できる。
- ◆ 市内の小中学校の児童生徒が競技観戦することができ、トップアスリートたちの熱戦を間近で見られたことは貴重な経験になったことと思われる。大いに評価する。
- ◆ 「燃ゆる感動かごしま国体」の開催は、始良市においても、貴重な経験であった。試合の来場者数が多く大会が盛り上がった事はもちろんのこと、大会の準備運営に関しても大変高い評価をいただいている。これも始良市民全員の努力とおもてなしの結果と考えます。この貴重な経験を今後、是非、市政に役立ていただきたい。
- ◆ 素晴らしい大会だった。始良市らしいおもてなしや取組について高い評価だったということも頷ける。

IV 外部評価委員の点検・評価・意見・要望等

教育総務課関係

1. 教育委員会の活性化の推進

- ◆ 教育委員の県外研修で先進的な取組を視察できたことは大変有益だったと評価する。
- ◆ 本市の教育課題に向けた各種会合や研修会が適切に行われている。
- ◆ 総合教育会議のテーマ「中学校部活動の地域移行について」は、時機を得たテーマであったと思う。
- ◆ 定例教育委員会が、教育委員の積極的な意見交換の場となるように期待したい。
- ◆ 教育委員会の活性化のためには、教育委員の方々の資質向上が大切である。今後も、県外研修等を積極的に計画してほしい。
- ◆ 定例会・臨時会について、適切な時期に開催され、議案について活発な質問や意見がなされ審議されていると評価できる。
- ◆ 教育委員の研修について、県・地区・市独自の研修ではそれぞれの学校の良さや取組・不登校対策など知見を広める有意義な研修が実施されていると思う。
- ◆ 学校訪問を含め各種行事へ参加し、学校の現状や課題を把握し、学校からの要望や委員からの指摘に対して改善に努めていると評価できる。

2. 適正な人事管理業務の推進

- ◆ 職員の資質向上のための研修を推進する一方で、職員の健康増進にも努めていただきたい。
- ◆ 年間計画に基づいた職員研修・健康診断・人事評価及び面談が、適正に実施されている。
- ◆ 県内では市町村職員の公金取扱いなどの不祥事が発生している。服務規律の厳正確保について、計画的に継続的に具体的に指導を進めて欲しい。
- ◆ 研修について、開催にあたり広い部屋の確保と基本的な感染対策を講じて各種研修を実施したことは評価できる。
- ◆ 職員の資質をさらに高められるようできる限り研修に参加してもらいたい。
- ◆ 各種健康診断、ストレスチェックが計画的に実施されていることは評価できる。

3. 適正な財務事務の推進

- ◆ 今後も適正な財務事務の推進をお願いしたい。
- ◆ 教育備品購入に関する年次的購入・購入基準の早急な策定をお願いしたい。
- ◆ 厳しい財政状況の中で、効率的に財政運用を進めることは、とても重要である。「高額備品の購入・更新計画書」の作成は、是非推進してほしい。
- ◆ 事務職員研修会が計画的に実施され、共通理解を図り財務事務の適正な予算執行がなされていると評価できる。

4. 良好な教育環境整備の推進

- ◆ 施設の新築・改修等に努められていると思う。今後も予算の確保に努めて、良好な教育環境を整えていただきたい。
- ◆ 学校のＩＣＴ整備は、業務改善につながるとされる。
- ◆ 安心・安全な環境づくりは、教育総務課の最大の使命であると思う。「事後の対応より事前の対応」という認識で、児童・生徒の事故が起きないように、引く続き努力してほしい。
- ◆ 各学校の施設整備について、改修、新築、建替え、屋外（樹木）、学校ＩＣＴ整備など優先順位を考慮しながら計画的に修繕・整備がなされていると評価できる。
- ◆ 老朽化が進んでいるとの現状なので、今後も予算の確保と計画的な教育環境の整備をお願いしたい。
- ◆ 毎年多数の学校から修繕の要望が上がり、同じ内容が続いていると伺っている。中長期計画・実績報告が広く行き渡るよう情報の届け方にも工夫が必要とを感じる。

学校教育課関係

1. 規範意識を養い豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育の推進

豊かな情操・感性を育てる道德教育の充実

- ◆ 豊かな感性を育てるための取組が充実しており、成果を上げていると思う。子どもたちに多くの発表の機会を与えてほしい。
- ◆ 道德科指導法開発委員会で作成した「郷土素材を活用した読み物資料」は、素晴らしい取組である。

- ◆ 「ことばのいずみスピーチコンテスト」の作品を読ませてもらい、とても感動した。小学生は、低・中・高別に分けてもいいのではないかなと思う。掲載された作品に、名前がないのはなぜだろうか。
- ◆ 「ハートフルメッセージコンテスト」は、とてもいい取組だと思う。今後も、是非継続してほしい。
- ◆ モラリティ・インクルーブメント推進事業について、協力校の実践発表と授業公開の開催に学校・家庭・地域の三者に児童も参加しての意見交換会も実施され、お互いの考えや思いを共有できる取組がなされていることに評価できる。道徳教育の充実を続けてほしい。
- ◆ ハートフルメッセージコンテストの実施について、優秀作品の印刷製本して配布と市民の道徳性向上を図る取組にも評価したい。

児童生徒の心に届く生徒指導の充実

- ◆ ケース会議等、関係機関との連携に努めていただきたい。
- ◆ 適応教室に通っていた中学3年の生徒が全員高等学校に入学できたことは素晴らしいことである。
- ◆ 不登校児童生徒への対応は、最重要課題であると思う。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の人的配置の充実はもちろんであるが、学校における、児童生徒の居場所作りや、日々の授業の充実の視点を忘れてはいけないと思う。
- ◆ スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置により、学校・各関係機関との連携と相談体制が整い、児童・生徒・保護者にとって悩みや困りごとについての相談と支援がなされ、改善に繋がっていることが大いに評価できる。

人権教育及び体験活動や読書活動の充実

- ◆ 教職員自らが人権感覚を磨いてほしい。人権感覚のアップデートが必要である。
- ◆ 宿泊学習や小中合同音楽会がコロナ禍以前の状況で実施することができ、充実した内容となったことは評価できる。
- ◆ 学校、社会を問わず、人権に関わる様々な問題が発生している。新たに、県の人権教育総合推進地域事業に取り組んだことは、とても評価できる。今後とも、教職員の人権意識の向上に努めてほしい。
- ◆ 各学校における人権教育の全体計画と年間指導計画が組まれており、校内研修や講演会も実施され、人権教育の推進が図られていると評価できる。今後も児童・生徒や教職員・保護者・地域の方々に人権教育の重要性を周知

し、推進を継続してもらいたい。

- ◆ 小中合同音楽会については、加音ホールという大きな舞台で練習した演奏や合唱など発表する機会や鑑賞する機会は児童・生徒にとってとても有意義だったと思う。良い体験になるので継続してもらいたい。

幼児教育の充実

- ◆ 研修内容については、毎回、工夫改善に努めていただきたい。
- ◆ 幼・保・小連携研修会の更なる充実を期待したい。
- ◆ 幼保小連携は、とても大切な取組であると思う。小学校への接続がスムーズにできるように、その内容を工夫してほしい。
- ◆ 幼保小の連携と研修や交流を通して、小学校へ円滑な接続が図られる取組ができていると評価したい。
今後も幼保小の切れ目のない接続を図れるよう継続してほしい。

2. 能力を伸ばし、社会で自立する力をはぐくむ教育の推進

「確かな学力」の定着

- ◆ 課題を明確にして、課題解決への工夫改善に努めていただきたい。
- ◆ 各中学校ごとの小中連携による「学びを支える基本的な学習・生活習慣の共通実践事項に関する取組」が学力向上につながっている。
- ◆ 中学校の各種調査が、年々向上しつつあるが、全般的に全国・県平均を下回っている。
- ◆ 学力向上に向けて様々な取組を推進していることは評価できる。その成果が、特に小学校では表われていると思う。今後、中学校の学力向上に向けて、日々の授業改善に向けた努力をしてほしい。
- ◆ 小中連携による共通実施事項を設定して、義務教育9か年を通して学力向上に向けて取り組んでいることは素晴らしい。
今後も継続して取り組んでももらいたい。

理数・外国語教育の充実

- ◆ 今後も充実した活動内容になるように努めていただきたい。
- ◆ 理数・外国語充実のための様々な取組がなされている。

- ◆ 理数・外国語教育の充実に向けた取組は、始良市教委の一つの特色であると思う。今後とも様々な機会を設けて、理科の好きな子ども・外国語に関心を持つ子どもを増やしてほしい。
- ◆ 理数・外国語について、研修や理数定着支援員の配置やそれぞれ計画に沿った取組が図られており、児童・生徒の能力を向上させる支援ができていると評価できる。
- ◆ スーパーサイエンス総合推進事業は、児童・生徒・教職員にとっても様々な活動を通して、科学についてたくさんのことを学び知る良い機会になっている。今後も多くの人に参加してもらえよう周知して継続してほしい。

特別支援教育や情報教育の充実の推進

- ◆ 特別支援学級に在籍する児童生徒が増加する中で、担当教員の指導力向上と支援員確保に努めていただきたい。
- ◆ 特別な支援が必要な児童生徒の増加傾向に伴い、初めて特別支援学級担任を経験する教師が3割となっており今後も増加することが予想される。専門性向上のための校内外の研修会等を継続していただきたい。
- ◆ 全学校で、支援を必要とする子どもたちへの一人一台の端末の活用を積極的に進めてほしい。
- ◆ 特別支援教育の充実については、今後もますます重要視されてくると思う。人的充実、質的充実を図り、一人一人の子どもに寄り添った教育を推進してほしい。
- ◆ 特別に支援を要する児童・生徒が増加している中、58人の特別支援教育支援員を配置し、細やかな支援に対応して頂いていることに大いに評価したい。
- ◆ 支援を必要とする児童・生徒は障害に応じて個々の実態や突発的な事が日々違う形で生じたりするので担任・支援員・関係機関・保護者がしっかりと連携を図り、迅速に対応できるようお願いしたい。
- ◆ 特別支援教育に関わる職員・支援員だけではなく、直接関わらない職員も、各学校に支援を要する児童・生徒が在籍しているので、研修会にできる限り参加して、情報交換や知識・スキルを学んでいざという時に対応できるようにしてほしい

進路指導・キャリア教育の充実

- ◆ 児童生徒が体験学習で得るものは大きいと思う。今後も子どもたちに自分の将来を考える機会を与えてほしい。

- ◆ あいらキャリアサポートバンクに例年同様１７５の事業所から賛同を頂いており、Ｒ６年度にもつながる受け入れ態勢を確保している。
- ◆ 各学校における職場体験学習が充実していることは評価できる。始良市内の多くの職場の協力が得られていることに感謝したい。
- ◆ 小中学生のキャリア教育に１７５事業所が賛同し、協力いただけていることに感謝し、すべての学校において職場体験学習を実施することができたことを評価したい。

体験活動や郷土教育の充実

- ◆ 継続して、子どもたちにふるさとの良さを感じる機会を与えてほしい。
- ◆ 郷土の素材を取り入れた「道徳科の実践事例集作成」、「社会科の副読本の改定」は、素晴らしい取組である。
- ◆ 総合的な学習の時間の補助事業とはどのような取組なのか知りたい。
- ◆ 地域のよさを生かした特色ある教育活動がなされていると評価できる。児童・生徒が体験を通して、自分たちが住んでいる地域は素晴らしいと感じてほしい。

３．児童生徒や保護者、地域に信頼される学校づくり

魅力ある学校づくりの推進

- ◆ グランドデザインを作成するなど、学校経営の方針が全職員で共有されていると感じる。今後は、具体的な取組の実践と継続的な課題の明確化に努めてほしい。
- ◆ 学校評議員会、学校関係者評議員会が、年間計画に沿ってすべての小中学校及び幼稚園で実施され、委員の評価や意見等が教育活動の改善等に生かされている。
- ◆ 管理職の資質向上は、極めて大切である。グランドデザインが立派であっても、それが具体的に実行されなければ意味がない。面談等で、その取組等について確認をしてほしい。
- ◆ 管理職研修会では、テーマに沿った研修が行われ各学校において経営改善が促進され、経営の充実が図られたことは評価できる。
- ◆ 学校評価委員会、学校関係者評価委員会で学校に対する評価や意見等があったものについては、職員共有の元、改善するように心がけてほしい。

学校運営の充実及び教職員の資質向上

- ◆ 充実した管理職研修会が計画的に行われていると思う。
- ◆ 年間計画に基づいた各種研修会、学校訪問が行われている。
- ◆ 管理職研修会については、管理職自らが、主体的に参加できる内容にするなどの工夫改善を図ってほしい。
- ◆ 管理職研修会と学校訪問が年間を通して計画され、管理職としての資質向上が図られ、学校訪問では経営全般、授業の様子や学校設備等において把握がなされ、指導点検がしっかり行われていることに大いに評価できる。
- ◆ 先生たちが疲れ切っている。これを解消するのは管理職であり、そこを支えるのも管理職と考える。環境や業務の見直しを図るだけでなく、管理職のスーパービジョンの更なる向上が必要と思う。

小規模校・複式教育の充実

- ◆ 特認校の魅力発信に努めていただきたい。
- ◆ 小規模校特認校制度理解を深めるための５校合同説明会や多様な学習の場を確保するための３校合同の交流学习・合同修学旅行等、様々な取組がなされている。
- ◆ 始良市は、小規模校の取組が充実していると思う。そこに子どもたちがおり、保護者、地域の方々がいらっしゃるという教育の原点を忘れることなく、充実した支援を進めてほしい。
- ◆ 小規模校５校合同説明会を実施できたことは、連携を深めるためにとっても良いことだと思う。
北山小・西浦小にバスを増便できたことも評価したい。
- ◆ 幼・保に通う年長児の保護者にも小規模校の良さを伝え、特認校制度についての周知・魅力の発信をしてみてもどうか。

教職員の業務改善

- ◆ 業務改善が進んでいると感じる。さらに教職員の意識改革と校務のDX化が求められる。
- ◆ 教職員の業務改善として「校務支援システムの活用が進み、在校時間が減少したこと」は、大いに評価したい。
- ◆ 各学校における「教職員の出退勤時刻の記録（確認）方法」について、教えていただきたい。

- ◆ 教職員の業務改善は喫緊の課題である。併せて、教育委員会事務局職員の業務改善も大切である。一人一人の職員の勤務状況を把握しながら、働きやすい環境整備に努めてほしい。
- ◆ 毎月市全職員の勤務実態を把握し、管理職研修会で改善事例を共有したことで、業務改善を意識した学校運営がなされたことは評価できる。
- ◆ 職員によって違いはあるのかと思いますが、指導や改善を促すだけでなく、その職員が想い（苦しみ）を聴き、本人自身が答えを見つけ成長及び改善していく必要もあると感じた。その為に聴いてくれる他者が必要であり、聴くスキルを身につけなければならないと思います。

社会教育課関係（社会教育係）

1. 社会教育の基盤づくり

関係機関との協力体制の強化及び職員の資質向上

- ◆ 社会教育委員の会は内容が充実しており、成果を上げていると思う。
- ◆ 社会教育委員からの提言が、家庭教育支援の各種事業に生かされている。
- ◆ 家庭教育の充実は、始良市においても大きな課題であると思う。社会教育委員の意見を家庭教育支援事業に生かしたということであるが、具体的にどのような意見があったのか知りたい。
- ◆ 社会教育委員の会も年2回開催され、研究テーマを設け多角的な意見を各事業に反映できたことは評価できる。

社会教育リーダーの育成及び社会教育関係団体との連携強化

- ◆ 若い世代へのSNSを活用した情報発信に努めていただきたい。
- ◆ 情報発信として「市報・始良FM・班回覧」が有効に活用されている。
- ◆ 社会教育関係団体の組織加入者の減少が課題であるが、すべての組織がこのような状況であるのか知りたい。
- ◆ 各種研修会に参加者の確保が努められ、実施されたことは評価できる。
- ◆ 各社会教育関係団体に対して、補助金交付や活動について育成支援は今後も継続してほしい。

2. 青少年教育の充実

生きる力を備えた青少年の健全育成

- ◆ 子どもたちの貴重な体験の場として、充実した事業が設定されていると思う。
- ◆ 青少年事業は、どの事業も参加者が多く充実している。
- ◆ ムーミン講座への児童生徒の参加者が毎年多いことは、大いに評価したい。
- ◆ 青少年育成のための様々な事業の実施は評価できる。退職校長会と連携して実施しているムーミン講座は、市内の多くの児童が体験活動に参加してくれた。今後も、保護者の理解を得て、充実したムーミン講座にしていきたい。
- ◆ 各種青少年育成事業について、参加申し込みが多数あり、多くの人が参加体験できていることに評価できる。
- ◆ ＳＳＶＣ＋事業について年間を通し、コーディネーターや家庭教育サポーター27人の皆様のご協力の元、各小中学校で地域の方と連携した支援が行われ、教職員・児童・生徒との交流も図られていることに感謝したい。
- ◆ 市二十歳の式典が晴れやかな式典となったことは評価したいが、在住の外国籍の対象者が参加されなかったことは残念である。
参加してもらえるよう手立てを考えてほしい。

3. 家庭教育・成人教育の充実

家庭教育の充実

- ◆ 家庭教育学級は、保護者が悩みを共有する場として、大きな役割を果たしていると思う。
- ◆ 保護者に対して「始良市子育て条例」、「子育て手帳」の更なる周知を図っていただきたい。
- ◆ 家庭教育学級や子育てサロンなどにより、子育てをする上での悩みの解消に役立っているのではないかと思います。こういう場に参加しない保護者への支援が今後の課題である。
- ◆ 家庭教育学級や子育てサロン・家庭教育フェスティバル・ワークショップに多くの方が参加し、家庭教育サポーターによる子育て悩み相談や情報交換ができる場をもうけ、悩みの解消になっていることは、大いに評価できる。継続してほしい。

成人教育の充実・人権教育の推進

- ◆ 成人学級開設の周知に努めていただきたい。
- ◆ 女性学級と高齢者学級を統合した成人学級（6学級）が新たにスタートし、充実した活動となっている。
- ◆ 女性学級と高齢者学級を統合して成人学級を開設したが、どのような成果があり、どのような課題があったのか知りたい。
- ◆ 成人学級という新たな6学級を開設して、多くの方が生きがいづくり・仲間づくりの場に参加し、生き生きと活動できていることは素晴らしい。
- ◆ 幼小中と家庭教育学級で人権教育学習が実施されたことは大いに評価できる。今後も続けてほしい。

4. 社会教育施設の充実と利用促進

- ◆ 各施設への来場者数が増加している。今後も魅力的なイベントを充実させてほしい。
- ◆ 社会教育施設の利用者が、増加したことは評価したい。
- ◆ 社会教育施設の来場者が増加していることは、とても素晴らしい。今後も、新たな視点でイベントの工夫をしてほしい。
- ◆ 各事業・施設において、内容も充実して利用者が増加していることは評価できる。
- ◆ 施設等の老朽化があるようなので、利用者さんに不便や大事に至らないように指定管理者と連携を図って、早めの対応をしていただきたい。

社会教育課関係（生涯学習係）

1. 生涯学習の推進

- ◆ 魅力ある講演会が出来ていると思う。
- ◆ 今後も市民のニーズに応じた指導者の発掘、情報提供に努めていただきたい。
- ◆ 生涯学習フェアは、一年間の成果発表の場である。今後も、多くの方々の参加が得られるように、講演や内容の充実を図ってほしい。
- ◆ 生涯学習フェアでは、川崎宗則選手が講師だったこともあり、多くの来場者があったように思う。今後も市民にとって魅力あるフェアにしてもらいたい。

2. 芸術文化活動の振興

- ◆ 団員数の増加につながるPR活動に努めていただきたい。
- ◆ 幅広い芸術文化鑑賞事業が、推進されている。
- ◆ 市立少年少女合唱団の団員数の減少が毎年の課題である。発表の場もいろいろ準備されているが、今後も、団員確保に向けての取組を強く進めてほしい。
- ◆ 青少年劇場や芸術鑑賞は、児童・生徒にとって本物の芸術を感じられる機会なので、素晴らしい事業だと評価できる。
- ◆ 市立少年・少女合唱団も団員数は少ないけれど、年間を通して活動を頑張っていることに評価したい。今後さらに工夫した周知で団員が増えることを願う。

3. 公民館施設の充実

- ◆ 施設の維持管理については、厳しい実情もあると思うが、計画的に進めていただきたい。
- ◆ 今後も施設設備の維持管理を計画的に進めていただきたい。
- ◆ 公民館施設の維持管理は、毎年の課題でもある。緊急度や必要度等を考慮しながら、計画的に進めてほしい。
- ◆ 各公民館の施設において、修繕や維持管理が随時なされていることに評価できる。今後も利用される市民の方の為に維持管理をお願いしたい。

4. 公民館事業の充実

- ◆ 若年層の受講者数増加へ向けて、継続的に工夫改善をお願いしたい。
- ◆ 生涯学習講座の受講者が増加していることは、評価したい。
- ◆ 生涯学習講座の開設講座数や受講者が増えていることは、とても素晴らしい。今後、若年層への参加の手立てを工夫してほしい。
- ◆ 公民館運営審議会の開催や生涯学習講座の受講者数も増加し、公民館施設の利用者数も増えていることは大いに評価できる。

社会教育課関係（文化財係）

1. 指定文化財登録文化財の保存・活用

- ◆ 文化財審議会が定期的開催され、文化財の活用や維持管理が適切になされている。
- ◆ 文化財の管理、保存、維持のためには、多額の予算が必要である。そんな中、蒲生のクスの維持管理事業が実施できたのは、とても良かった。
- ◆ 文化財の整備については、市シルバー人材センターや歴史ボランティアによる巡回・清掃・職員の定期清掃・加治木ロータリークラブの方々のご協力で説明板の設置・修繕・維持管理ができていることに感謝したい。
- ◆ 史跡めぐりの支援についても始良歴史ボランティア協会のご協力に感謝したい。

2. 埋蔵文化財の保存・活用

- ◆ 長年取り組んでこられた前田遺跡発掘調査の総括報告書完成（R8年度）が待ち遠しいです。
- ◆ 毎年増加する調査件数に対して、対応できる職員がいるのか心配である。
- ◆ 前田遺跡調査成果の一般公開の実現と公開する時はたくさんの人に周知を行ってほしい。

3. 郷土芸能の保存・育成

- ◆ 郷土芸能の保存・継承に努めていると思う。
- ◆ 今後も支援・補助を継続していただきたい。
- ◆ 郷土芸能の保存に当たっての後継者不足は、どこの市町村も抱える課題である。伝統が途絶えそうな郷土芸能については、今後、ビデオ等での保存も検討していくべきではないか。
- ◆ 加治木と蒲生の太鼓踊りが4年ぶりに開催されたことを喜びたい。出演される方々の体調管理と支援もお願いします。
各保存会の後継者育成と保存会活動支援のための補助金は継続してほしい。
- ◆ 全ての団体ではないと思うが、継続するにあたり団体はもちろん、地域も一体となって保存に対し取り組んでいる。だが、その活動が一部

の地域の人たちには負担となり、自治会の脱退や未加入者が増えている。
(これだけが理由ではない) 補助金の増額が望ましいと考える。

4. 施設の充実

- ◆ 入館者数確保としての更なる広報活動や学校教育・社会教育との連携を図っていただきたい。
- ◆ 「ふるさと歴史講座」は、地域の歴史と伝統を知る良い機会になっていると思う。今後も、魅力ある歴史講座にしてほしい。
- ◆ 特別展を開催できたこと、小学3・4年生の社会科見学の実施、始良歴史ボランティア協会をサポートし、各種団体の史跡めぐりガイドを行ったことは大いに評価できる。

図書館事務局関係

1. 図書館のサービス業務と読書活動の充実

図書館利用の促進

- ◆ 入館者数、貸出人数、貸出冊数とも増加している。読書活動の充実につながることを期待している。
- ◆ 入館者・貸出人数・冊数が昨年よりかなり増加している。大いに評価できる。
- ◆ 始良市の図書館の利用状況は、県内でも上位ではないかと思う。いつ行っても、利用者が多いと感じている。今後も、多くの市民の学びの場としての図書館サービスを期待したい。
- ◆ 年間を通し、通常通り開館できたことは喜ばしい。
入館者数・貸出人数・貸出冊数ともに増加していること、見学・研修についても受入を増加し実施できていること、様々な方法で広報活動にも取り組み、情報発信できたことなど評価できる。

図書館資料の充実・活用

- ◆ 利用者のニーズを把握し、幅広い資料収集を心がけていることは評価したい。

民間活力の導入・広域利用の促進

- ◆ ボランティアの募集・育成を継続していただきたい。
- ◆ 雑誌スポンサーの減少やおはなしボランティアの高齢化・減少化と課題があるが、広報や募集を促進し若い方々のボランティアが増える事を期待したい。

心地よい居場所としての図書館づくり

- ◆ 水曜映画会には、意外と多くの市民が利用していることに驚いた。
- ◆ 年間多くのふれあいプラザの活用と約 100 回の映画会の実施にたくさんの方の参加があったことは評価できる。

家庭・地域・学校等における読書活動の推進

- ◆ 子どもたちの読書活動がますます活発になることを期待している。
- ◆ 様々な取組がなされており、県教育委員会から表彰されたことは素晴らしいことである。
- ◆ 読書活動推進優良図書館等表彰は、これまでの様々な取組が認められた結果だと思う。これを励みに、さらに「本の大好きな始良の子」の育成に向けて努力してほしい。
- ◆ 県教育委員会から子どもの読書推進活動が認められ、表彰されたことはとても素晴らしい。
- ◆ 移動図書館車「あいあい号」の巡回を楽しみにしている子どもたちは多いと思うので、これからも移動には気を付けて巡回してほしい。

図書館イベントの円滑な運営

- ◆ 年間計画に基づいた様々な取組がなされている。
- ◆ 図書館イベントが、多くの子どもたちや保護者の喜びの場になっていることが分かる。図書館に通う子どもたちが更に増えることを期待したい。
- ◆ 図書館での各イベントについて、多くの方々が参加され、興味・関心を持ち、楽しさを感じて、体験してもらう機会の提供に取り組んでいることは評価できる。

視聴覚ライブラリーの充実

- ◆ 視聴覚ライブラリーの利用促進に向けた「機器や資料の更新・選定」を計画的に進めてほしい。
- ◆ 視聴覚ライブラリーを利用している人は、年間どれくらいいるのだろうか。
- ◆ 視聴覚ライブラリーの利用について、始良市以外の市町村はどのような利用方法があるのかを確認してみてもどうか。

2. 始良市立図書館ネットワークの充実

- ◆ ウェブサービス、オサイフケータイの登録利用者が年々増加している。
- ◆ ウェブサービスの利用者が増えてきていることは、とても喜ばしい。今後とも、利用しやすい図書館になるために啓発してほしい。
- ◆ 地区公民館との連携も図られてきたとのことで、利用者へのサービスを今後も迅速に行ってほしい。

保健体育課関係

1. 生涯スポーツの推進

- ◆ SNSを活用した広報がなされ、情報発信に努めていると思う。スポーツ推進委員の人材確保に努めていただきたい。
- ◆ 各種スポーツ団体との連携のもとSNS等による情報発信を活用した様々な大会が開催され、多数の参加者があった。
- ◆ スポーツ推進委員の人材不足は、他の市町村も抱えている課題であると思う。人材確保に向けてを議題の一つとしたスポーツ推進委員会を開いてみたらどうかと思う。
- ◆ 生涯スポーツ・スポーツイベント事業による体験や大会、教室などに年間たくさんの方が参加され、競技への関心が高いことが伺える。素晴らしい取組なので継続してほしい。
- ◆ 各スポーツ関係団体やスポーツ推進委員との連携も図れていると評価できる。

2. 競技スポーツ、スポーツ環境整備の推進

- ◆ スポーツ合宿の誘致に努めており、評価できる。
- ◆ 各種団体への活動補助金や全国大会等出場奨励金の交付は、団体や選手にとって大きな支援（励み）となるので、今後も継続していただきたい。
- ◆ 「薩摩おいどんカップ」は、毎年充実してきており、始良市が誇る一大イベントではないかと思う。今後、より多くの市民、特に児童生徒が参観してくれたら有難い。
- ◆ プロ・アマ問わず、海外も含めて6チーム合宿誘致を行い、チームの要望等を共有した上で支援し、スポーツ観戦の機会を図るなど大いに評価できる。
- ◆ 各施設の利用者数も増えているが、第2期始良市スポーツ推進計画に定める目標値47万人に向けて利用しやすい施設の維持をお願いしたい。

3. 体力・運動能力の向上

- ◆ 全国体力・運動能力調査では、小学校男女・中学校男子が、県平均を超えている。
- ◆ 体力が全国平均を下回っているのは残念な結果である。昨年度も同じような結果ではなかったかと思う。体力向上に向けての取組を、学校と一体となって推進してほしい。
- ◆ 「体力アップ！チャレンジかごしま」の取組に市内全ての学校が参加し、チャレンジしてベスト10に小学校7校・中学校3校、重富小が2年連続学校賞を受賞したことに大いに評価できる。

4. 健康教育の充実

- ◆ 学校保健安全法に基づいた健康診断や就学時検診やその後の対応が適切に行われている。
- ◆ 健康診断や就学時検診は、保護者が子どもたちの健康状況を知り、治療推進を促す絶好の機会でもある。今後も、その意義を踏まえた取組を進めてほしい。
- ◆ 各種検診等については、計画的に実施されている。疾病等があった場合は、必ず保護者へ連絡し治療を行うよう今後も推進してほしい。

- ◆ アレルギー疾患を有する児童・生徒について、教職員は、学校全体で共有し、できることなら各クラスで児童・生徒間でもアレルギーを持つ人がいる事を知ってもらうことが大事ではないかと思う。
- ◆ 新型コロナウイルスやインフルエンザ以外の感染症に関しても、対策と情報共有、保護者へすばやい周知・啓発は必要だと思う。あらゆる感染症予防と対策を引き続き行ってほしい。

5. 安全・安心な学校づくり

- ◆ 「始良っ子見守り隊、スクールガードリーダー、安全アドバイザー」の方々と連携が適切に行われている。
- ◆ 不審者事案件数が減少していることは喜ばしい。多くの地域の方々の協力が得られていることにも感謝したい。しかし、危機意識は常に持って、子どもたちの安全を、地域全体で守っていただきたい。
- ◆ 通学路安全アドバイザーやスクールガードリーダーの配置により、各校区の通学路の安全体制が図られていることや始良っ子見守り隊や地域の方々の登下校の見守りのおかげで、児童・生徒の安全の確保が図られていることに感謝したいです。
- ◆ 登下校時の見守り隊の活動は、共働き家庭にとっては非常に良い取組であり、働き方を変えずにいられると思う。どの会社も団体も人手不足に悩まされる。活動の仕方も現代に合わせて検討していく必要がある。

6. 食育の推進

- ◆ 食育推進事業に新たに「出前講座」が加わり、食に関する指導の充実が図られている。
- ◆ 食育推進校の指定、食育講演会の実施は、食育の推進を図るために、とてもいい取組である。今後も、継続してほしい。
- ◆ 食育推進事業として4つの事業に取り組み、食育講演会はたくさんの参加者があり、初めて実施した出前講座では参加者から好評を得るなど、食育の推進が図られたと評価できる。

7. 学校給食の充実

- ◆ 学校給食費の公会計への移行は、学校現場における業務改善につながり大いに評価したい。

- ◆ 給食調理場の空調設備の状況について教えていただきたい。（現在の調理場・新設の共同調理場の予定）
- ◆ 学校給食の公会計化は、学校の業務改善の点からも非常にいい取組である。スムーズな運営がなされるように期待したい。
- ◆ 栄養教諭や調理従事者の方々の徹底した衛生管理により、安全・安心な学校給食の提供が行われていることに大いに評価できる。
- ◆ 夏場の時期は、調理をする方々にとって熱中症になりやすい過酷な状況だと思う。具合が悪くなった調理員が複数人いたとのことなので体調管理に充分気を付けてほしい。

国体推進課関係

1. 国民体育大会、全国障害者スポーツ大会の開催

(1) 大会実施に向けた取組

- ◆ 市内小中高校の児童生徒が様々な形で国体に関わることができたのは、大変貴重な経験だったと思う。多くの市民の協力と努力で大会を盛り上げることができたと思う。
- ◆ 本市で行われた各種競技は、関係競技団体等との連携のもとスムーズに行われ、一般の方々や小中学校の児童生徒の学校参観等、多数の観客もあり素晴らしい盛り上がりのある大会となった。
- ◆ 大きな大会が、始良市の職員だけではなく、多くの市民の協力を得ながら、立派に開催できたことに拍手を送りたい。私も、バスケットボールやライフル射撃を見に行ったが、ボランティアの方々のおもてなしや、児童生徒の学校参観など多くの感動を味わうことができた。今後、この実績を、有効に生かしていきたいものである。
- ◆ 「燃ゆる感動かごしま国体」開催にあたり、準備・運営本当に大変だったと思います。
大会は大いに盛り上がり、選手・各関係者の方々から高い評価を頂いたとのことで、素晴らしい大会だったと評価します。

始良市教育委員会外部評価委員

番号	氏 名	経 歴 等	備 考
1	宇 都 尚 美	加治木高等学校長	学校教育
2	麓 吉 雄	学校評議員(元中学校長)	社会体育
3	和田 幸一郎	元志布志市教育委員会教育長	教育委員会が必要と認める者
4	百武 美津代	元始良市教育委員	社会教育
5	古 川 将 大	竜門小学校PTA会長	PTA連絡協議会代表者

令和6年7月8日現在

始良市教育委員

番号	氏 名	役 職 等	備 考
1	川 畑 逸 郎	教 育 長 職 務 代 理 者	
2	岩 元 真 美	教 育 委 員	
3	藤 田 麻 美	教 育 委 員	
4	高橋 隆一郎	教 育 委 員	

令和6年5月14日現在

○始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則

平成22年 3 月23日教育委員会規則第 5 号

始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。以下「法」という。）第26条の規定に基づき、教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象及び時期)

第 2 条 点検及び評価の対象は、法第23条各号に掲げる事務及び教育施策上の重要課題とする。

2 点検及び評価は、毎年度、前年度の前項に規定する事項について行うものとする。

(資料の整理等)

第 3 条 点検及び評価に資するため、事務局（法第18条に規定する事務局をいう。）は、前条第 1 項に規定する事項について、必要な資料を整理する。

(教育に関し学識経験を有する者の知見の活用)

第 4 条 法第27条第 2 項の規定に基づき、点検及び評価を行うに当たり教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、始良市教育委員会外部評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置するものとし、必要な事項は、別に定める。

(議会報告等)

第 5 条 始良市教育委員会は、評価委員会からの答申を踏まえ、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、始良市議会に提出するとともに、これを公表するものとする。

(庶務)

第 6 条 点検及び評価の実施に関する庶務は、教育総務課において処理する。

(委任)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成22年 3 月23日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日までに、合併前の教育に関する事務の点検及び評価の実施に関する要綱（平成21年加治木町教育委員会要綱第 1 号）又は教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則（平成21年始良町教育委員会規則第 1 号）の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの規則の相当規定によりなされたものとみなす。

附 則（平成30年 3 月30日教委規則第 3 号抄）

(施行期日)

1 この規則中は、第 1 条、第 3 条及び第 4 条の規定は公布の日から、第 2 条の規定は平成30年 4 月 1 日から施行する。

(始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則の一部改正に関する経過措置)

4 この規則の施行の際現に在職する教育長の在任特例期間においては、第 4 条の規定による改正後の始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則第 1 条の規定は適用せず、第 4 条の規定による改正前の始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則第 1 条の規定は、なおその効力を有する。

始良市教育委員会外部評価委員会規程

(設置)

第1条 始良市教育に関する事務の執行の状況の点検及び評価の実施規則（平成22年始良市教育委員会規則第5号）第4条の規定に基づき、始良市教育委員会外部評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 評価委員会は、始良市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じ、次に掲げる事項について審議し、その結果を答申するものとする。

- (1) 教育委員会の事務の点検結果の評価に関すること。
- (2) 教育委員会の委員の活動状況点検結果の評価に関すること。
- (3) その他教育委員会の点検及び評価に関し必要と認めること。

(組織)

第3条 評価委員会は、5人以内の評価委員をもって組織する。

2 評価委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学校教育、社会教育及び社会体育に知見を有する者
- (2) 芸術文化関係に知見を有する者
- (3) P T A連絡協議会代表者
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 評価委員の任期は、委嘱日から当該委嘱日の属する翌年度末までとし、補欠評価委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

(会長)

第5条 評価委員会は、会長1人を置き、評価委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、評価委員会を代表する。

(会議)

第6条 評価委員会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 会議は、評価委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席評価委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第7条 評価委員会の庶務は、教育総務課において処理する。

(委任)

第8条 この訓令に定めるもののほか、評価委員会の運営に関し必要な事項は、会長が会議に諮って定める。

附 則

この訓令は、平成22年3月23日から施行する。

附 則（平成24年6月14日教委訓令第11号）

この訓令は、告示の日から施行する。